

令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

**知的障害特別支援学校高等部と専門学校の有機的連携の開発と実証**

# **事業成果報告書**

令和6年3月

学校法人仙台北学園

仙台リハビリテーション専門学校

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、学校法人仙台北学園仙台リハビリテーション専門学校が実施した令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

## 目次

■事業活動報告 .....	4
1. 事業の趣旨・目的 .....	5
2. 学習ターゲット・めざす人材像 .....	5
3. 事業の実施体制 .....	6
3.1. 実施体制.....	6
3.1.1. 構成機関.....	6
3.1.2. 実施委員会.....	7
3.1.3. 分科会 .....	7
3.1.4. コーディネーター .....	7
3.1.5. 事務局 .....	7
3.2. 各機関の役割・協力事項.....	8
3.2.1. 教育機関.....	8
3.2.2. 行政機関.....	8
3.2.3. 団体・医療機関・企業等 .....	8
3.2.4. コーディネーター .....	9
3.2.5. 事務局 .....	9
4. 事業に取り組む背景 .....	10
5. 事業計画の概要（6 年） .....	15
6. 今年度の取り組み .....	18
6.1. 実証講座の実施・検証.....	18
6.1.1. 概要 .....	18
6.1.2. 実証講座の実施実績.....	19
6.1.3. 実証講座の結果要旨.....	44
6.2. 高等部・高等学園間の連携支援の実施 .....	47
6.2.1. 実証講座の相互参観・意見交換の実施 .....	47
6.2.2. 教職員対象の講座の実施 .....	47
6.2.3. 生徒の保護者による講座の参観・保護者対象の講座の実施 .....	47
6.3. 教育プログラムの開発.....	47
6.3.1. カリキュラム策定の基本方針（2023 年度版） .....	47
6.3.2. カリキュラム（2023 年度版） .....	48
6.3.3. 教材開発の基本方針.....	51
6.3.4. 開発教材の概要 .....	52
6.3.5. 教材開発の意義・活用方策 .....	57
6.4. 学習支援・教育支援環境の構築 .....	59
■巻末資料.....	61

## ■ 事業活動報告

## 1. 事業の趣旨・目的

本事業では、知的障害特別支援学校高等部と専門学校が連携して5年間の一貫型職業教育プログラムを開発・実施する。

知的障害特別支援学校に在籍する児童・生徒は年々増加の傾向にあるが進学率は低く、その理由の1つが進学先となる高等教育機関が非常に少ないことによる。こうした現状の中、高等部卒業後の進学に対するニーズは過去の調査等で確かめられており、進学先の整備は今後の課題である。

一方、高等部では卒業後の経済的自立を見据えて様々な職業教育が実施されており、多くの成果を生み出しているものの就職は容易ではなく、また就職後の職場定着は芳しいとはいえないのが実状である。知的障害者の経済的自立を促進する上で職業教育のさらなる質向上や充実化も重要な課題である。

進学先の整備及び職業教育の充実化というこれらの課題の解決に向けて、本事業では特別支援学校→専門学校という5年間の一貫型職業教育プログラムを開発・実施する。

ここでは職業人としての基礎を学ぶプログラムから、生徒の潜在的な可能性を広げること狙いとして、雇用ニーズが高い「介護」を含む複数の職業分野の職業教育へと段階的に発展するプログラムを提供する。これにより、職業教育の充実化を図ると共に、専門学校という進学の実選択肢を増やしていくことを目的とする。

## 2. 学習ターゲット・めざす人材像

○高校及び専門学校で共有する目標・人材像・ビジョン

次の能力を有する人材を養成する。(進学しない生徒も以下の基礎力を習得する)

- 1) 就労に必要な職業能力
- 2) 就労により経済的自立が達成できる力
- 3) 周囲に依らず日常的な身の回りのことを行う自立的生活力
- 4) 社会環境に適応し地域社会に貢献できる力

○高校卒業段階までに目指す人材像・ビジョン

上記1)～4)の基礎力を備えた人材

○専門学校卒業段階までに目指す人材像・ビジョン

上記1)の就労に必要な職業能力として、「介護」等の専門分野に係わる専門知識・技能を身に付けた人材

## 3. 事業の実施体制

### 3.1. 実施体制

#### 3.1.1. 構成機関

本事業を推進する組織として、実施委員会を産官学の連携により編成した。実施委員会は学校法人仙台北学園仙台リハビリテーション専門学校を代表機関とし、特別支援学校高等部（知的障害）、行政機関（宮城県・福島県）、福祉医療分野の専門学校、福祉医療関連の機関・企業等で構成した。

図表 3-1 実施委員会の構成機関

名称	所在地
宮城県立支援学校岩沼高等学園	宮城県
宮城県立支援学校女川高等学園	宮城県
宮城県立支援学校小牛田高等学園	宮城県
福島県立石川支援学校	宮城県
福島県立大笹生支援学校	宮城県
宮城県教育庁特別支援教育課	宮城県
福島県教育庁特別支援教育課	福島県
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 宮城障害者就職センター	宮城県
宮城県社会福祉協議会	宮城県
学校法人仙台北学園仙台リハビリテーション専門学校	宮城県
学校法人こおりやま東都学園郡山健康科学専門学校	福島県
学校法人智帆学園琉球リハビリテーション学院	沖縄県
学校法人北杜学園仙台医療福祉専門学校	宮城県
学校法人福嶋学園倉敷リハビリテーション学院	岡山県
学校法人大美学園大阪美容専門学校	大阪府
学校法人敬心学園職業教育研究開発センター	東京都
宮城県リハビリテーション専門職協会	宮城県
医療法人上野医院	福岡県
株式会社奏音	広島県
株式会社ジャパンマネジメンツ	福島県
株式会社 PCL	宮城県
株式会社良創夢	福岡県
株式会社フクシア	福島県

### **3.1.2. 実施委員会**

実施委員会は本事業を推進する主体として、事業計画に基づき、事業内容の具体化方針や実現方法、スケジュール等の重要事項を検討・決定する役割を担った。さらに実施委員会の下部機関として設ける分科会に対して業務の指示、結果の評価と助言・改善指示等を行った。また、事業成果の活用、特別支援学校や専門学校等への周知、普及促進に係る方策を主導した。

### **3.1.3. 分科会**

実施委員会の決定・指示の下、一貫型職業教育プログラムの開発、実証講座の準備・実施・検証等を行う2つの分科会「開発分科会」「実施検証分科会」を編成した。活動の成果は実施委員会に報告し改善等を図った。

開発分科会はカリキュラム策定や教材開発等を担当した。実施検証分科会は実証講座の準備・実施・検証を担当した。各分科会のメンバーは、実施委員会の構成機関に所属する適任者により構成した。

### **3.1.4. コーディネーター**

コーディネーターは、事業全体の調整、進捗管理、専門学校と特別支援学校、行政機関、施設、企業等の橋渡し等を担当した。

### **3.1.5. 事務局**

会議運営や会計業務など事業の実施に係る事務的な業務全般を担当する事務局を設置した。

## 3.2. 各機関の役割・協力事項

### 3.2.1. 教育機関

#### (1) 支援学校高等部及び高等学園

宮城県立の支援学校である岩沼高等学園、小牛田高等学園、女川高等学園、福島県立の支援学校である大笹生支援学校、石川支援学校の各校は、高等部における職業教育の実施実績や課題等に関する情報を提供した。また、一貫型職業教育プログラム（高等部3年間）の学習内容等に対する要望や改善提案等を行った。さらに、高等部生徒に対する実証講座の実施・検証に協力した。

#### (2) 専門学校・大学

仙台リハビリテーション専門学校は実施委員会の代表機関として、本事業全体の推進を管理統括した。その過程において、過去の文部科学省委託事業「知的障害者を対象とする社会生活・職業を学ぶ学科の構築と実証事業」（平成30～令和2年度）の取組で得られた知見・実績やリハビリテーション教育のノウハウの活用を図った。

福祉医療分野の専門学校・大学はその専門的観点から、一貫型職業教育プログラムのカリキュラムや学習内容、教育方法などに関する知見・ノウハウ等を提供し、プログラムの開発に協力した。さらに、介護福祉学科を設置している専門学校は、高等部での実証講座を担当する他、卒業後の進学先として事業に協力した。

### 3.2.2. 行政機関

宮城県及び福島県の教育庁特別支援教育課は、各県における支援学校高等部・高等学園の現状や自治体・行政の取り組み状況等に関する情報を提供し、専門学校と支援学校高等部及び高等学園の連携調整や高・専のカリキュラムの接続性等に対する助言などについて協力した。

### 3.2.3. 団体・医療機関・企業等

専門分野「介護」に係る学習内容に関する知見、介護実務の現状や人材に求められる能力・態度等に関する知見、支援学校高等部及び高等学園及び専門学校の職業教育に対する要望等を提供した。また、見学実習や実務者講師の派遣などに協力する他、卒業生の就職先としても協力を依頼した。



### **3.2.4. コーディネーター**

事業活動の全体調整・進捗管理・体制構築、広報、効果検証、支援学校高等部及び高等学園・企業等（就職先）・専門学校・県教育庁の橋渡しなどを行い、実施委員会と共に事業の推進役を担った。

コーディネーターは支援学校の元校長であり、その経験・見識に基づき、一貫型職業教育プログラムの内容や指導・評価方法等について助言した。

### **3.2.5. 事務局**

実施委員会・分科会の会議運営、会計業務、支援学校高等部及び高等学園と専門学校の連携調整などコーディネーターの活動支援、外注管理、事業成果物の取りまとめなど事務的業務全般を担当した。また、実施委員会・分科会の活動・検討結果に基づき、定型業務の一部について、外部企業の協力を得るなどして教育プログラムの開発・実証講座実施等の取りまとめを担当した。

## 4. 事業に取り組む背景

本事業の背景、取り組むことの意義・ねらいについて、その要点を以下に説明する。

### ●年々増加の傾向にある知的障害特別支援学校の児童・生徒数

知的障害特別支援学校に在籍する児童・生徒の人数が年々増え続けている。平成 20 年度の 9.7 万人から平成 30 年度は 13 万人と増えており、視覚障害や肢体不自由など他の障害者がほぼ横ばいであるのとは対照的である（文部科学省「学校基本調査」）。この傾向は今後もしばらく続くと予測されており、各自治体等において、知的障害特別支援学校の教育環境の整備や教育体制・内容の一層の充実化が喫緊の課題となっている。

### ●知的障害特別支援学校高等部の課題 キャリア教育・職業教育の充実化

知的障害特別支援学校高等部（以下、高等部）では、職業学科・普通科のいずれにおいても、卒業直後からの社会的・職業的な自立に向けて、専門教科によるキャリア教育・職業教育が重要な位置付けとなっている。具体的には、卒業生の就職実績等に基づき、サービス業、小売・卸売、食品製造・加工、医療・福祉等の職業に関する知識や技能、職業人としての態度を養う教育が行われている。学内での授業だけでなく、企業等の学外での職場実習も実施されており、教育課程の 1 つの柱を構成している。

### ●高等部単独での取り組みの難しさ 専門学校との連携の必要性

こうした職業教育のなお一層の充実化は高等部の課題だが、高等部の多くは普通科であり、職業学科であっても高等部 1 校単独で職業教育を実践することには難しさがある。この点について、専門学校の教員や企業・施設等の実務者が高等部で授業を行うことで充実化を図っていくことは有効策である。実際のところ、宮城県内の高等部（岩沼高等学園、小牛田高等学園、女川高等学園）にヒアリングした結果、専門学校と連携した職業教育への具体的な要望が確かめられている。

### ●「進学」という進路の現状

高等部卒業後の進路は全国平均でみると「社会福祉施設等入所・通所」が約 60 % と最も多く、これに次ぐのが「一般就職」の約 35 % となっている。これに対して「進学」はわずか 0.4 % と 1 割に満たない（文部科学省「学校基本調査」）。進学が少ないのは進学先が非常に限られていることが大きな要因の 1 つである。具体的には、高等部本科の進学先となる専攻科を設置している特別支援学校は全国で 9 校しかない。知的障害者に限らず、職業人として社会で働く上で、しっかりした職業教育は不可欠であり、その意味において知的障害者の専門学校への進学が少ないということ自体が大きな課題である。

### ●進学という進路に対する潜在的なニーズとその対応の必要性

仙台リハビリテーション専門学校は、2018年度から3年間に亘り文部科学省委託事業として高等部卒業後の進学先となる「社会生活・職業を学ぶ学科」の構築に係る取り組みを進めてきた。その活動の一環として実施した全国調査では、高等部の半数近くが卒業後の進路として「進学が必要」と回答している<sup>1</sup>。また、全国障害者問題研究会の調査（障がい者の高等部卒業後の教育年限延長に関する意識の調査研究）においても、保護者の約7割が「進学」を求めていることが報告されているなど、進学に対する潜在的なニーズは確実にあると考えられる。

### ●進学先としての専門学校 職種教育のさらなる充実に向けて

高等部と連携して専門学校が職業教育プログラムを提供することで、より一層の職業理解や技能の修得等の教育効果が期待できる。さらに潜在的な進学ニーズを踏まえると、連携教育の結果として、職業についての学びを継続したいと考える生徒、続けさせたいと思う保護者が現れることは十分に考えられることである。高等部卒業後の選択肢の1つとして「専門学校への進学」を示すことで、こうした生徒の継続的な学びのニーズや保護者の要望に応えることができる。

### ●学ぶ専門分野は「介護福祉」

進学後の専門分野として「介護福祉」を設定する。その理由は、人材不足が慢性化している介護福祉の実務現場において、近年知的障害者に対する雇用ニーズが高く、実際に介護福祉施設等への就職実績が増えていること、一部の特別支援学校高等部においても介護福祉に係る基礎的な職業教育を実施し、一定の教育成果が生まれているからである。また、清掃などバックヤード業務のような定型的な作業から生活介助まで能力に応じて従事できるという仕事上の特性もあり、進路として適切であると考えられる。

昨今では介護人材の質が問われる虐待等の事例もあるが、専門学校でしっかりと専門知識と技術を学び、専門職としての心がまえ・マインドを身に付けた上で就職できることの重要性は非常に高い。これは、就職後の職場定着の安定化にもつながるものと期待できる。

### ●知的障害者が介護福祉に進むことの意義・狙い 恩恵を「授ける」職業人へ

福祉とは「すべての人々の幸福」を意味するものであり、「幸福とは自分なりの幸せを考え、福祉とは他者に寄り添いながら人の幸せを考える」ということができる。つまりこれは、障害者だから人から恩恵を受ける方ではなく、障害者自身も人へ恩恵を授けることができ

---

<sup>1</sup> 学校法人仙台北学園仙台リハビリテーション専門学校「知的障害者を対象とする社会生活・職業を学ぶ学科の構築と実証 事業成果報告書」（2018～2020年度）

ることを知ることでもある。それは、障害者が生きやすい社会は、必ずや健常者にとっても生きやすい社会であろうことを意味する。

介護福祉分野の職業人として仕事に従事することにより、障害者自身が恩恵を受けることができる—これが本事業において就職・社会的な活動の場として、介護福祉を選択する狙いでもある。

### ●生徒の潜在的な可能性を広げることも重要

その一方で、福祉以外の専門分野についても教育プログラムに取り入れていく必要がある。その理由は、高等部の段階においては、生徒の持っている潜在的な可能性を広げるべく、生徒自らが将来の進路を探ることを支援することも重要だからである。具体的には、各校の要望や生徒の状況に応えながら、販売やサービスなどといったこれまでの就職実績も踏まえて内容を検討するなどの方策が適当である。

### ●計5年間の一貫・連続した職業教育の構築～進学しない生徒にも大きなメリットを

専門学校も高等部卒業生を受け入れる体制をしっかりと整備する必要がある。高等部と連携した職業教育の実践経験を通して、専門学校は知的障害者への理解を深め、障害に応じた適切な職業教育の内容や方法を開発すると共に、そのノウハウを専門課程の教育の中に落とし込んでいく必要がある。これにより高等部3年間と専門学校2年間、トータル5年間の一貫した職業教育プログラムが具体化されることになる。

また、専門学校への進学が難しい生徒にとっても、高等部の3年間に充実した職業教育を受けられることのメリットは大きい。社会に出て職業人として働き続ける上での基盤となる能力が培われるからである。

### ●高等部・専門学校の教育の課題～低い職場定着率

知的障害者の職場定着率（就職1年後）は68.0%という調査結果があるが、これは障害者を含む常用労働者全体の1年間の平均離職率14～17%程度と比べて高いとは言い難い水準にある<sup>2</sup>。知的障害者に対する効果的な職業教育の実践と共に、就職後に継続して働くことができる素地を培うことも学校教育の課題となっている。

離職の理由は様々ではあるが、「高等部→専門学校」のトータル5年間の一貫・連続した職業教育はこうした課題に対しても改善の効果が見込める。5年間の学びを通して、職業・職種の専門的な知識や実務的な技能、職業人としての基本的な態度・姿勢を身につけることで、職業や職場への適応力は確実に高まるはずである。その結果、早期に離職する者の減少にもつながるものと期待できる。

---

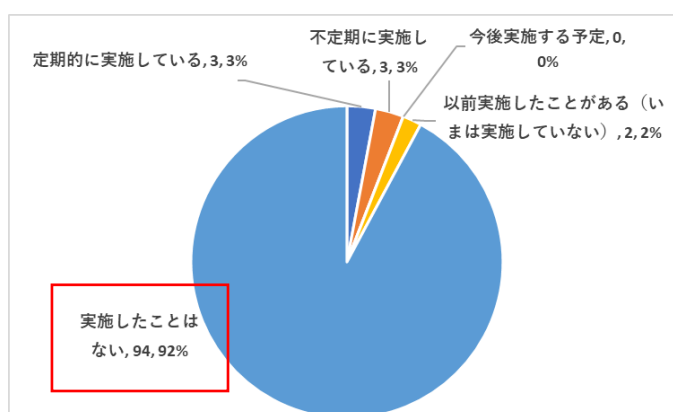
<sup>2</sup> 高齢・障害・求職者雇用支援機構障害者職業総合センター「障害別にみた職場定着率の推移と構成割合」（2017年）

またさらなる取り組みとして、高等部と専門学校が連携して、就職してからの継続的な就労、キャリア形成をフォローアップしていく体制を構築・運用していく必要がある。

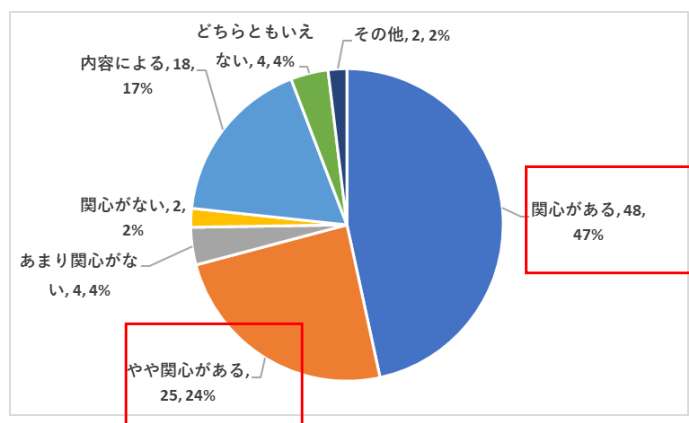
### ●高等部・専門学校連携をめぐる課題 相互理解の促進

一貫型職業教育プログラムの開発・実施では、その前提として高等部と専門学校の相互理解の促進が不可欠である。昨年度事業で実施した特別支援学校高等部対象のアンケート調査では、以下のグラフに示すように、「専門学校と連携した教育を実施したことがない」が9割を超えており、多くが専門学校と接点を有していないのが実状である。しかしその一方で、「専門学校と連携した教育への関心」については、7割以上が「関心がある」と回答している<sup>3</sup>。

図表 4-1 専門学校と連携した教育の実施状況



図表 4-2 専門学校と連携した教育への関心の有無



<sup>3</sup> 学校法人仙台北学園仙台リハビリテーション専門学校「知的障害特別支援学校高等部と専門学校の有機的連携の開発と実証 事業成果報告書」（2021年度）

こうした現状を踏まえると、一貫型職業教育プログラムの開発・実施のプロセスにおいて、高等部と専門学校の教員レベルが相互の理解を深めていくような活動も行っていく必要がある。

## 5. 事業計画の概要（6 か年）

本事業の令和3年度から令和8年度までの事業計画概要を以下に示す。

令和4年度の1年生を対象とする教育から年度ごとに学年を上げていく計画となっているが、年度にとらわれることなく、どの年度においても高等部の要望に沿った学年に対する職業教育を可能な範囲で実施することを基本方針とする。

図表 5-1 事業計画の概要（6 か年）

年度	取組内容
令和3年度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業実施体制の構築</li> <li>2. 特別支援学校高等部の現状把握</li> <li>3. 一貫型職業教育プログラムの開発               <ul style="list-style-type: none"> <li>○カリキュラム設計</li> <li>○高等部1年生向け教材・指導ガイド</li> </ul> </li> <li>4. 実証講座の実施準備               <ul style="list-style-type: none"> <li>○計画</li> <li>○実施準備（高等部1年生対象）</li> </ul> </li> <li>5. 学習支援・教育支援環境の整備</li> <li>6. 事業成果の公開               <ul style="list-style-type: none"> <li>○事業成果報告書の配布・公開等</li> </ul> </li> </ol>
令和4年度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一貫型職業教育プログラムの開発               <ul style="list-style-type: none"> <li>○カリキュラム設計</li> <li>○高等部2年生向け教材・指導ガイド</li> <li>○高等部1年生向け教材・指導ガイド改訂</li> </ul> </li> <li>2. 実証講座の実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>○実施・検証（高等部1年生対象）</li> <li>○実施準備（高等部2年生）</li> <li>○実施・検証（高等部教員対象）</li> </ul> </li> <li>3. 学習支援・教育支援環境の整備・運用</li> <li>4. 事業成果の公開               <ul style="list-style-type: none"> <li>○事業成果報告書の配布・公開等</li> </ul> </li> </ol>
令和5年度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一貫型職業教育プログラムの開発               <ul style="list-style-type: none"> <li>○カリキュラム設計</li> <li>○高等部3年生向け教材・指導ガイド</li> <li>○高等部2年生向け教材・指導ガイド改訂</li> </ul> </li> <li>2. 実証講座の実施</li> </ol>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実施・検証（高等部2年生対象）</li> <li>○実施準備（高等部3年生）</li> <li>○実施・検証（高等部教員対象）</li> <li>3. 学習支援・教育支援環境の整備・運用</li> <li>4. 事業成果の公開 <ul style="list-style-type: none"> <li>○事業成果報告書の配布・公開等</li> </ul> </li> </ul>
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 一貫型職業教育プログラムの開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>○カリキュラム設計</li> <li>○専門学校1年生向け教材・指導ガイド</li> <li>○高等部3年生向け教材・指導ガイド改訂</li> </ul> </li> <li>2. 実証講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>○実施・検証（高等部3年生対象）</li> <li>○実施準備（専門学校1年生）</li> <li>○実施・検証（高等部教員対象）</li> </ul> </li> <li>3. 学習支援・教育支援環境の整備・運用</li> <li>4. 事業成果の公開 <ul style="list-style-type: none"> <li>○事業成果報告書の配布・公開等</li> </ul> </li> </ul>
令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 一貫型職業教育プログラムの開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>○カリキュラム設計</li> <li>○専門学校2年生向け教材・指導ガイド</li> <li>○専門学校1年生向け教材・指導ガイド改訂</li> </ul> </li> <li>2. 実証講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>○実施・検証（専門学校1年生対象）</li> <li>○実施準備（専門学校2年生）</li> <li>○実施・検証（高等部教員対象）</li> </ul> </li> <li>3. 学習支援・教育支援環境の整備・運用</li> <li>4. 事業成果の公開 <ul style="list-style-type: none"> <li>○事業成果報告書の配布・公開等</li> </ul> </li> </ul>
令和8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 一貫型職業教育プログラムの開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>○カリキュラム設計</li> <li>○高等部1～3年・専門学校1・2年生向け教材・指導ガイド最終版</li> </ul> </li> <li>2. 実証講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>○実施・検証（専門学校2年生対象）</li> <li>○実施・検証（高等部教員対象）</li> </ul> </li> <li>3. 事業成果の総括・展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>○事業6年間の総括</li> </ul> </li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"><li>○普及促進策の策定・実施</li><li>4. 学習支援・教育支援環境の整備・運用</li><li>5. 事業成果の公開</li><li>○事業成果報告書の配布・公開等</li></ul>
--	--

## 6. 今年度の取り組み

### 6.1. 実証講座の実施・検証

#### 6.1.1. 概要

本事業の推進組織である実施委員会の構成機関である特別支援学校各校と連携し、開発した教材を使用した実証講座を実施することで、その有効性や改善点などを検証した。本事業の委託期間は2023年6月から2024年3月であるが、委託期間外で実施した実証講座も職業教育プログラムとして一貫した流れの位置づけとなるため、その実施内容・結果についても、本稿では取り上げることとする。以下に実施した実証講座を一覧で示す。

図表 6-1 実証講座実施一覧

	日時	学校名	テーマ	対象	参加生徒	参加教員
第1回	3月13日(月)	小牛田高等学園	将来に向けて職業と社会を理解しよう	2年生	21	10
第2回	5月8日(月)	大笹生支援学校	ライフプランについて考える	3年生	8	4
第3回	5月9日(火)	岩沼高等学園	仕事をするときに心がけること	2年生	28	7
第4回	5月10日(水)	岩沼高等学園	仕事をするときに心がけること	3年生	38	10
第5回	5月14日(日)	岩沼高等学園	余暇の過ごし方(ソフボール)	岩沼高校学園チーム /宮城選抜チーム	25	5
第6回	6月2日(金)	小牛田高等学園	ビジネスマナー	1年生	22	7
第7回	6月6日(火)	岩沼高等学園	仕事をするときに心がけること	1年生	38	10
第8回	6月28日(火)	大笹生支援学校	現場実習の振り返り	3年生	6	3
第9回	7月1日(土)	仙りハ学園祭	販売の現場学習(出店)	岩沼高等学園	15	4
第10回	7月22日(土)	TBC夏祭り	教育作成物の販売/活動紹介	小牛田高等学園出品		
第11回	7月23日(日)	TBC夏祭り	教育作成物の販売/活動紹介	小牛田高等学園出品		
第12回	8月20日(日)	岩沼高等学園	余暇の過ごし方(ソフボール)	岩沼高校学園チーム /宮城選抜チーム	30	6
第13回	9月5日(火)	小牛田高等学園	仕事をするときに心がけること	2年生	21	8

第14回	9月15日(金) 岩沼高等学園	販売の現場実習の事前勉強	山形芋煮フェスティバル事前勉強会	6	3
第15回	9月17日(日) 岩沼高等学園	販売の現場学習(出店)	山形芋煮フェスティバル	8	5
第16回	9月27日(水) 大笹生支援学校	ストレス解消ストレッチ	3年生	6	4
第17回	10月11日(水) 岩沼高等学園	販売の現場実習の振り返り	山形芋煮フェスティバル事後勉強会	7	1
第18回	10月25日(水) 大笹生支援学校	コミュニケーション	3年生	6	3
第19回	10月31日(火) 小牛田高等学園	履歴書を書く準備を始めよう	3年生	19	3
第20回	11月29日(水) 大笹生支援学校	面接の前に準備しておくこと	3年生	6	2
第21回	12月5日(火) 大笹生支援学校	ひとりでできるストレッチ	運動部	21	7
第22回	12月20日(水) 大笹生支援学校	お金の使い方	3年生	6	3
第23回	1月9日(火) 石川支援学校	ライフプラン	3年生	16	3
第24回	1月31日(水) 大笹生支援学校	作業療法体験	3年生	6	3
第25回	2月6日(火) 小牛田高等学園	健康管理とメンタルヘルスを考えよう	3年生	21	5
第26回	2月6日(火) 小牛田高等学園	健康管理とメンタルヘルスを考えよう	2年生	19	5
第27回	2月21日(水) 女川高等学園	ビジネスマナー	3年生	24	9
第28回	3月11日(月) 大笹生支援学校		1年生		
第29回	3月14日(木) 小牛田高等学園		2年生		
第30回	3月18日(月) 大笹生支援学校		1年生		
合計数				423	130

## 6.1.2. 実証講座の実施実績

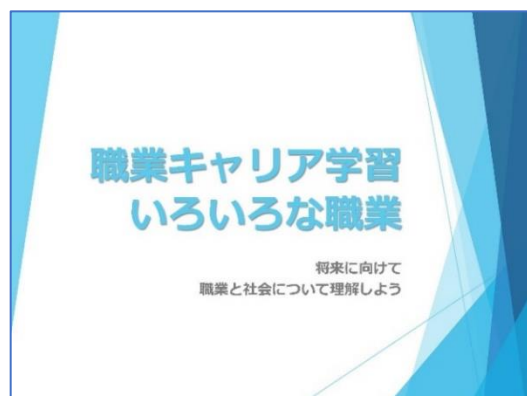
今年度実施した実証講座の各回の実施概要を以下に示す。

### 6.1.2.1. 第1回 実証講座 (小牛田高等学園)

講座名	将来に向けて職業と社会を理解しよう
開催日時	2023年3月13日(月)

	10時40分～12時20分(90分)
場所	宮城県立支援学校小牛田高等学園
対象者	2年生 21名、教員10名
担当	講師：櫻井直人、補助：根本峰人
教材	資料名：職業キャリア学習いろいろな職業 将来に向けて職業と社会について理解しよう 媒体（紙媒体、投影、Google フォーム）
実施内容等	<p>1. 実施準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料投影の確認</li> <li>・事前打ち合わせ</li> </ul> <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師紹介</li> <li>・講義</li> <li>・感想・アンケート</li> </ul> <p>3. 後始末</p> <p>（この講義で学ぶこと）</p> <p>①身近な職業について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンビニの店員さんの仕事</li> <li>・コンビニにおにぎりが運ばれるまで①～⑥</li> <li>・トラックなどで物を運ぶ仕事、</li> <li>・おにぎりなど物をつくる仕事</li> <li>・食べ物の材料をつくる仕事</li> </ul> <p>②自分にはどんな仕事がある？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を理解しましょう</li> <li>・自分の性格は？、どんな仕事がある？</li> </ul> <p>③働くことについて考えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働くことの意味</li> </ul>
添付資料	講義資料：職業キャリア学習いろいろな職業 将来に向けて職業と社会について理解しよう アンケート：紙媒体 その他：タブレット使用

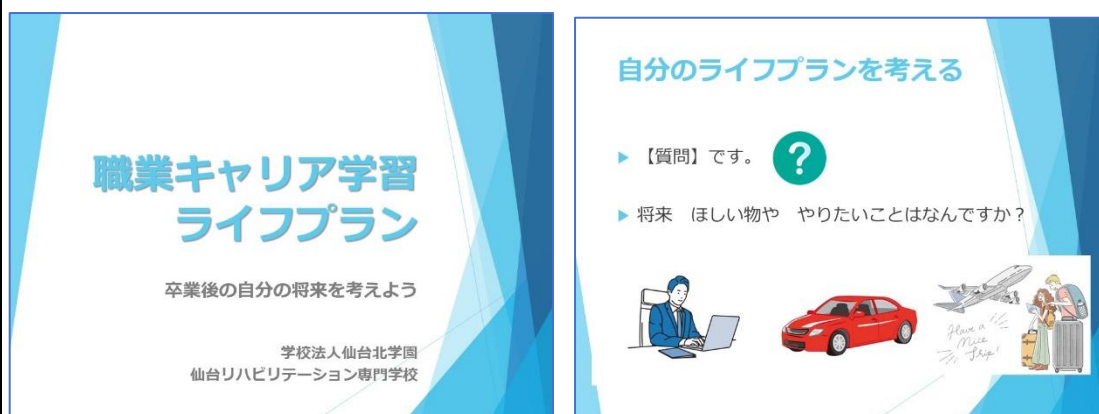
本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）



### 6.1.2.2. 第2回 実証講座 (大笹生支援学校)

講座名	ライフプランについて考える
開催日時	2023年5月8日(月) 14時00分～14時50分(50分)
場所	福島県立大笹生支援学校
対象者	3年生 8名、教員4名
担当	講師：根本峰人
教材	資料名：職業キャリア学習ライフプラン 卒業後の自分の将来を考えよう 媒体(紙媒体、投影)
実施内容等	<p>1. 実施準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料投影の確認</li> <li>・事前打ち合わせ</li> </ul> <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師紹介</li> <li>・講義</li> <li>・感想・アンケート</li> </ul> <p>3. 後始末</p> <p>(この講義で学ぶこと)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ライフプランとは</li> <li>②自分のライフプランを考える</li> <li>③ライフプランを作ってみる</li> <li>④まとめ</li> </ol> <p>ワークショップ：ライフプラン作成及び発表</p>
添付資料	講義資料：ライフプランについて考える アンケート：紙媒体

本講座の講義用教材(表紙と抜粋ページ)



### 6.1.2.3. 第3回 実証講座 (岩沼高等学園)

講座名	仕事をするときに心がけること
開催日時	2023年5月9日(火) 10時40分～12時20分(90分)
場所	宮城県立支援学校岩沼高等学園
対象者	2年生 28名、教員7名
担当	講師：櫻井直人、補助：根本峰人
教材	資料名：仕事をするときに心がけること 媒体(紙媒体、投影、Googleフォーム)
実施内容等	<p>1. 実施準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料投影の確認</li> <li>・事前打ち合わせ</li> </ul> <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師紹介</li> <li>・講義</li> <li>・感想・アンケート</li> </ul> <p>3. 後始末</p> <p>(この講義で学ぶこと)</p> <p>①仕事のすすめ方、②言葉づかいのきほん ③アドバイスを受ける、④きほん的な 報告 連絡 相談 ⑤お願いする・質問する、⑥注意や叱られてとき ⑦しよるいの渡し方、⑧めいしの交換、⑨電話の対応 ⑩情報処理の原則、⑪パソコンを使うときの原則、 ⑫お客様への対応、⑬せんぱいになったら・・・</p>
添付資料	講義資料：仕事をするときに心がけること アンケート：紙媒体 その他：タブレット使用

本講座の講義用教材(表紙と抜粋ページ)

## 仕事をするときに 心がけること

---

上司や同僚たちと気持ちよく  
はたらくために、人がいやな気持ち  
にならないよう、人を思いやる  
大切なビジネスマナーです。

- 注意や叱られている時の態度 -


**4** 同じ失敗をしないようメモに取る

何日かたつと、忘れてしまうことがあるので、ときどき  
メモを読み返す

**5** かんじょう的にならない

もう少し早く  
知らせほしいんだよね

・落ち込むのではなく、  
同じ失敗をしないように考えることが大切  
・なぜ、自分ばかり叱られるのかと不満に思わない  
⇒ 態度に出る  
・“自分のどこを直してほしいか”を  
れいせいに考える



#### 6.1.2.4. 第4回 実証講座 (岩沼高等学園)

講座名	仕事をするときに心がけること
開催日時	2023年5月10日(水) 13時30分～15時10分(90分)
場所	宮城県立支援学校岩沼高等学園
対象者	3年生 38名、教員10名
担当	講師：櫻井直人、補助：根本峰人
教材	資料名：仕事をするときに心がけること 媒体(紙媒体、投影、Googleフォーム)
実施内容等	<p>1. 実施準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料投影の確認</li> <li>・事前打ち合わせ</li> </ul> <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師紹介</li> <li>・講義</li> <li>・感想・アンケート</li> </ul> <p>3. 後始末</p> <p>(この講義で学ぶこと)</p> <p>①仕事のすすめ方、②言葉づかいのきほん ③アドバイスを受ける、④きほん的な 報告 連絡 相談 ⑤お願いする・質問する、⑥注意や叱られてとき ⑦しよるいの渡し方、⑧めいしの交換、⑨電話の対応 ⑩情報処理の原則、⑪パソコンを使うときの原則、 ⑫お客様への対応、⑬せんぱいになったら・・・</p>
添付資料	講義資料：仕事をするときに心がけること アンケート：紙媒体 その他：タブレット使用

本講座の講義用教材(表紙と抜粋ページ)


## 仕事をするときに 心がけること

---

上司や同僚と気持ちよく  
はたらくために、人がいやな気持ちに  
ならないよう、人を思いやる  
大切なビジネスマナーです。

55 どのように声をかけてお願い・質問をしますか？

- A 「すみません」
- B 「申し訳ありません」
- C 「お手数ですが」
- D 「今お時間良いですか？」




### 6.1.2.5. 第5回 実証講座 (岩沼高等学園)

講座名	余暇の過ごし方 (ソフトボール)
開催日時	2023年5月14日 (日) 9時30分～12時00分 (150/分)
場所	宮城県立支援学校岩沼高等学園
対象者	岩沼高等学園ソフトボール部、宮城県選抜チーム
担当	仙台北学園 教職員、学生
教材	資料名： 媒体
実施内容等	<p>職業教育の一環として、余暇の過ごし方について検討した際に本事業の協力校の岩沼高等学園の教員の相澤教務部長が日本知的障がい者ソフトボール連盟理事長を務めており、余暇 (ソフトボール) として、岩沼高等学園ソフトボールチーム及び、宮城県選抜チーム並びに仙台リハビリテーション専門学校選抜チームで合同練習及び練習試合を実施した。</p> <p>(この講義で学ぶこと) 余暇の過ごし方として、心身の健全のために運動 (ソフトボール) を実施する。</p>
添付資料	講義資料： アンケート： その他：ソフトボール用具一式

### 6.1.2.6. 第6回 実証講座 (小牛田高等学園)

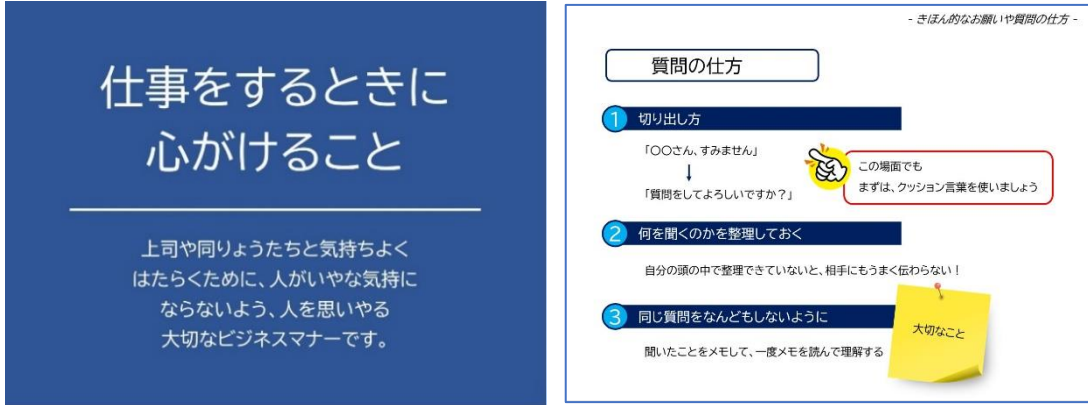
講座名	ビジネスマナー
開催日時	2023年6月2日 (金) 9時40分～11時30分 (90/分)
場所	宮城県立支援学校小牛田高等学園
対象者	1年生 22名、教員7名
担当	講師：櫻井直人、補助：根本峰人
教材	資料名：ビジネスマナー 媒体 (紙媒体、投影、Google フォーム)
実施内容等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料投影の確認</li> <li>・事前打ち合わせ</li> </ul> </li> <li>2. 講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師紹介</li> <li>・講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想・アンケート</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>3. 後始末</li> </ol> <p>(この講義で学ぶこと)</p>



	1. 通勤・職場での服装、2. 身だしなみ、 3. 職場の中での移動、4. 出社～始業時間まで、 5. あいさつ、6. 言葉づかいの基本、 7. 書類の渡し方、8. アドバイスを受ける、 9. お願いする・質問する、 10. 基本的な報告と連絡と相談、 ・ロールプレイ
添付資料	講義資料： ビジネスマナー アンケート：紙媒体 その他：タブレット使用
本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）	
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">前半戦</p> <h2 style="text-align: center; margin: 0;">ビジネスマナー</h2> <hr style="width: 50%; margin: 10px auto;"/> <p style="text-align: center; font-size: small; margin: 0;">服装や身だしなみ、 通勤時に気をつけることがあります。</p> <p style="text-align: center; font-size: x-small; margin: 0;">また、職場内でのあいさつや移動 なども身につけましょう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">④ 「ほうれんそう」 で間違っていることは？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div> <p>A 「ほう」は報告</p> <p>B 「れん」は連絡</p> <p>C 「そう」は相談</p> <p><input checked="" type="radio"/> D 野菜</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> </div> </div>	

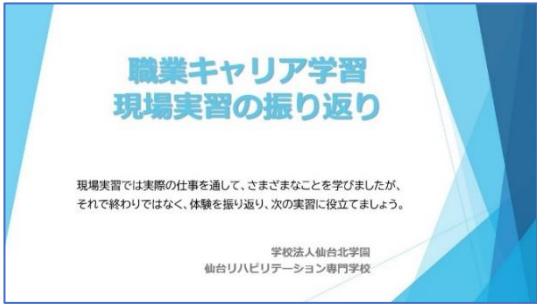
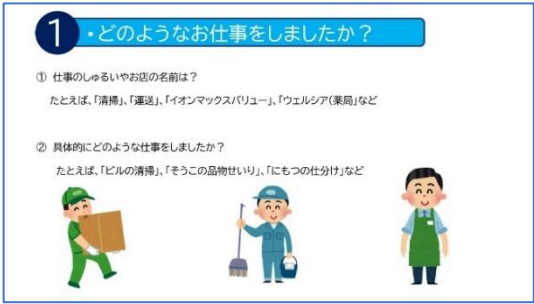
### 6.1.2.7. 第7回 実証講座 （岩沼高等学園）

講座名	仕事をするとときに心がけること
開催日時	2023年6月6日（水） 10時40分～12時20分（90分）
場所	宮城県立支援学校岩沼高等学園
対象者	1年生 38名、教員10名
担当	講師：櫻井直人、補助：根本峰人
教材	資料名：仕事をするとときに心がけること 媒体（紙媒体、投影、Google フォーム）
実施内容等	1. 実施準備 ・資料投影の確認 ・事前打ち合わせ 2. 講義 ・講師紹介 ・講義 ・感想・アンケート 3. 後始末  （この講義で学ぶこと） ①仕事のすすめ方、②言葉づかいのきほん ③アドバイスを受ける、④きほん的な 報告 連絡 相談 ⑤お願いする・質問する、⑥注意や叱られてとき

	⑦しよるいの渡し方、⑧めいしの交換、⑨電話の対応 ⑩情報処理の原則、⑪パソコンを使うときの原則、 ⑫お客様への対応、⑬せんぱいになったら・・・
添付資料	講義資料：仕事をするときに心がけること アンケート：紙媒体 その他：タブレット使用
本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）	
	

#### 6.1.2.8. 第8回 実証講座（大笹生支援学校）

講座名	現場実習の振り返り
開催日時	2023年6月28日（水） 13時10分～14時00分（50分）
場所	福島県立大笹生支援学校
対象者	3年生 8名、教員3名
担当	講師：根本峰人
教材	資料名：職業キャリア学習 現場実習の振り返り 媒体（紙媒体、投影）
実施内容等	1. 実施準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>資料投影の確認</li> <li>事前打ち合わせ</li> </ul> 2. 講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>講師紹介</li> <li>講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>感想・アンケート</li> </ul> </li> </ul> 3. 後始末  （この講義で学ぶこと） ①どのようなお仕事をしましたか。 ・自分の体験した仕事の種類や内容

	<p>②振り返りチェック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみ、・時間、・あいさつ、・言葉づかい、</li> <li>・報告、連絡、相談</li> <li>・実習で一番できたこと、できなかったこと</li> </ul> <p>③まとめ</p> <p>ワークショップ：現場実習の振り返り及び発表</p>
添付資料	<p>講義資料：職業キャリア学習 現場実習の振り返り</p> <p>アンケート：紙媒体</p>
<p>本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><b>1</b> ・どのようなお仕事をしましたか？</p> <p>① 仕事のしゅるいやお店の名前は？ たとえば、「清掃」、「運送」、「イオンマックスバリュー」、「ウェルシア(薬局)」など</p> <p>② 具体的にどのような仕事をしましたか？ たとえば、「ビルの清掃」、「そのこの品物せいり」、「にもつの仕分け」など</p>  </div> </div>	

### 6.1.2.9. 第9回 実証講座 (岩沼高等学園)

講座名	販売の現場実習
開催日時	2023年7月1日(土) 10時00分～15時00分
場所	仙台リハビリテーション専門学校
対象者	生徒 15名、教員4名
担当	調整：根本
教材	資料名： 媒体
実施内容等	<p>仙台リハビリテーション専門学校文化祭で自分達が製作した教育作成物を一般来場者に対して販売をする。</p> <p>①商品の準備、陳列、補充、</p> <p>②商品説明、呼び込み、</p> <p>③販売、会計、袋詰め、</p> <p>④後片付け</p> <p>(仙台リハビリテーション専門学校 文化祭)</p> <p>日時：7月1日(土) 10:00～15:00</p> <p>※準備開始；9:15～</p> <p>場所：仙台リハビリテーション専門学校 屋外出店ゾーン</p> <p>販売品：生花、野菜、木工製品の販売</p>
添付資料	<p>講義資料：</p> <p>アンケート：</p> <p>その他：</p>

### 6.1.2.10. 第10回 実証講座 (小牛田高等学園)

講座名	教育製作物の販売及び活動紹介
開催日時	2023年7月22日(土) 10時00分～17時00分
場所	TBC夏祭り会場(仙台市勾当台公園)
対象者	小牛田高等学園
担当	調整：根本
教材	資料名： 媒体
実施内容等	TBC夏祭り(テレビ局イベント)の仙台リハビリテーション専門学校出店ブースにて、小牛田高等学園制作の教育製作物を委託販売する。あわせて、本事業の活動パネル展示をし、市民への取り組みに対する理解を深めてもらう。 (TBC夏祭り) 日時：7月22日(土) 10:00～17:00 ※準備開始；9:00～ 場所：TBC夏祭り 仙台リハビリテーション専門学校 出店ブース(仙台市勾当台公園) 販売品：木工製品 展示：高専連携事業／支援学校の取り組みについて
添付資料	講義資料： アンケート： その他：

### 6.1.2.11. 第11回 実証講座 (小牛田高等学園)

講座名	教育製作物の販売及び活動紹介
開催日時	2023年7月23日(日) 10時00分～16時00分
場所	TBC夏祭り会場(仙台市勾当台公園)
対象者	小牛田高等学園
担当	調整：根本
教材	資料名： 媒体
実施内容等	TBC夏祭り(テレビ局イベント)の仙台リハビリテーション専門学校出店ブースにて、小牛田高等学園制作の教育製作物を委託販売する。あわせて、本事業の活動パネル展示をし、市民への取り組みに対する理解を深めてもらう。 (TBC夏祭り) 日時：7月23日(日) 10:00～16:00 ※準備開始；9:00～ 場所：TBC夏祭り 仙台リハビリテーション専門学校

	出店ブース（仙台市勾当台公園） 販売品：木工製品 展 示：高専連携事業／支援学校の取り組みについて
添付資料	講義資料： アンケート： その他：

### 6.1.2.12. 第12回 実証講座 （岩沼高等学園）

講座名	余暇の過ごし方（ソフトボール）
開催日時	2023年5月14日（日） 9時30分～12時00分（150分）
場所	宮城県立支援学校岩沼高等学園
対象者	岩沼高等学園ソフトボール部、宮城県選抜チーム
担当	仙台北学園 教職員、学生
教材	資料名： 媒体
実施内容等	職業教育の一環として、余暇の過ごし方について検討した際に本事業の協力校の岩沼高等学園の教員の相澤教務部長が日本知的障がい者ソフトボール連盟理事長を務めており、余暇（ソフトボール）として、岩沼高等学園ソフトボールチーム及び、宮城県選抜チーム並びに仙台リハビリテーション専門学校選抜チームで合同練習及び練習試合を実施した。（この講義で学ぶこと） 余暇の過ごし方として、心身の健全のために運動（ソフトボール）を実施する。
添付資料	講義資料： アンケート： その他：ソフトボール用具一式





### 6.1.2.13. 第13回 実証講座 （小牛田高等学園）

講座名	仕事をするとときに心がけること
開催日時	2023年9月5日（火） 8時50分～10時30分（90分）
場所	宮城県立支援学校小牛田高等学園
対象者	1年生 21名、教員8名
担当	講師：櫻井直人、補助：根本峰人
教材	資料名：仕事をするとときに心がけること 媒体（紙媒体、投影、Google フォーム）
実施内容等	1. 実施準備 ・資料投影の確認 ・事前打ち合わせ 2. 講義

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師紹介</li> <li>・講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想・アンケート</li> </ul> </li> </ul> <p>3. 後始末</p> <p>(この講義で学ぶこと)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言葉づかいの基本、</li> <li>2. アドバイスを受ける、</li> <li>3. 基本的な報告と連絡と相談、</li> <li>4. お願いする・質問する、</li> <li>5. 注意や叱られたとき、</li> <li>6. お客さまへの対応、</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイ</li> </ul>
添付資料	<p>講義資料：仕事をするときに心がけること</p> <p>アンケート：紙媒体</p> <p>その他：タブレット使用</p>
<p>本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="247 929 782 1332" style="border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #1a3d54; color: white; text-align: center;"> <h2 style="margin: 0;">仕事をするときに 心がけること</h2> <hr style="width: 50%; margin: 10px auto;"/> <p style="font-size: small; margin: 0;">上司や同僚やたちと気持ちよく はたらくために、人がいやな気持ちに ならないよう、人を思いやる 大切なビジネスマナーです。</p> </div> <div data-bbox="805 929 1348 1332" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid gray; border-radius: 5px; margin-bottom: 10px;">基本的な言葉づかい</p> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p><b>返事</b> <span style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">はい</span></p> <p style="font-size: x-small;">「ちょっと来てください」と言われた時 ⇒ 「はい」 「〇〇さん」と言われた時 ⇒ 「はい、何でしょうか」</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p><b>呼びかけ</b> <span style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">〇〇さん、(お仕事中)失礼します</span></p> <p style="font-size: x-small;">用事がある時は、少し近づいて声をかける 上司には、「〇〇主任、失礼します」と、役職名をつける</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p><b>丁寧に</b> <span style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">「～です」「～ます」「～ました」「～ません」「～ください」</span></p> <p style="font-size: x-small;">作業が終わって報告する時 ⇒ 「〇〇が終わりました」 次の仕事が終わらなくなった時 ⇒ 「次の仕事を教えてください」</p> </div> <div> <p><b>声の大きさ</b> <span style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">場所や場面に合わせて変える</span></p> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 5px; padding: 2px; display: inline-block; font-size: x-small; margin-top: 5px;">静かなところでは、 小さな声で</div> </div> </div> </div>	

#### 6.1.2.14. 第14回 実証講座 (岩沼高等学園)

講座名	販売の現場実習の事前勉強
開催日時	2023年9月15日(金) 15時30分～16時30分
場所	宮城県立支援学校岩沼高等学園
対象者	生徒 6名、教員2名
担当	講師：吉田(望)、根本 副：櫻井、川崎、橋本、吉田(翔太)
教材	資料名：日本一の山形芋煮会フェスティバル事前勉強会 媒体：紙
実施内容等	9月17日に開催される「第35回 日本一の山形芋煮会フェスティバル」に出店し、販売の現場実習をするための事前勉強会を実施した。

	<p>(内容)</p> <p>①販売について学ぶ  ・何を売るか考える、・商品を（事前）に準備する、  ・商品を（当日）準備する、・商品を売る、  ・売上を管理する、・後片付けをする</p> <p>②販売数の予想  ③販売品の原価（材料費）  ④販売品の原価（間接費）  ⑤原価を考えて販売数を予想  ⑥商品準備（キュウリの一本漬）</p>
添付資料	講義資料：販売の現場実習の事前勉強 アンケート： その他：
本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>第35回 日本一の山形芋煮会フェスティバル</p> <p>仙りハHANDS &amp; 文部科学省委託事業  かき氷、冷甘酒、きゅうりの一本漬 <b>販売体験!!!</b></p> <p>日時：2023年9月17日（日）  場所：山形市馬見ヶ丘河川敷（雨天決行）  標高：日本一の大観（直径6.5メートル）「三代目大観・  観人観」で約3万食の芋煮を行います。  芋煮大会第一記録です!!!</p>  </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>かき氷、冷甘酒、きゅうりの一本漬の販売数を予想しよう!!!</p> <p>1. かき氷 <b>300円/1杯</b>  シロップかけ放題（イチゴ、ブルーハワイ、メロン、  マンゴー、グレープ）  <b>350円/1杯</b>  シロップかけ放題 + 練乳</p>  <p>2. 冷甘酒 <b>200円/1杯</b></p>  <p>3. きゅうりの一本漬  <b>200円/1本</b></p>  </div>

### 6.1.2.15. 第15回 実証講座（岩沼高等学園）

講座名	販売の現場実習
開催日時	2023年9月17日（日） 10時00分～15時00分
場所	日本一の山形芋煮会フェスティバル会場（山形県山形市）
対象者	生徒 8名、教員5名
担当	調整：根本
教材	資料名： 媒体
実施内容等	日本一の山形芋煮会フェスティバルに仙りハビリティーション専門学校が出店してブースで商品販売の現場実習を実施した。 <p>(現場実習)</p> ①商品の準備、陳列、補充、 ②商品説明、呼び込み、 ③販売、会計、袋詰め、 ④後片付け

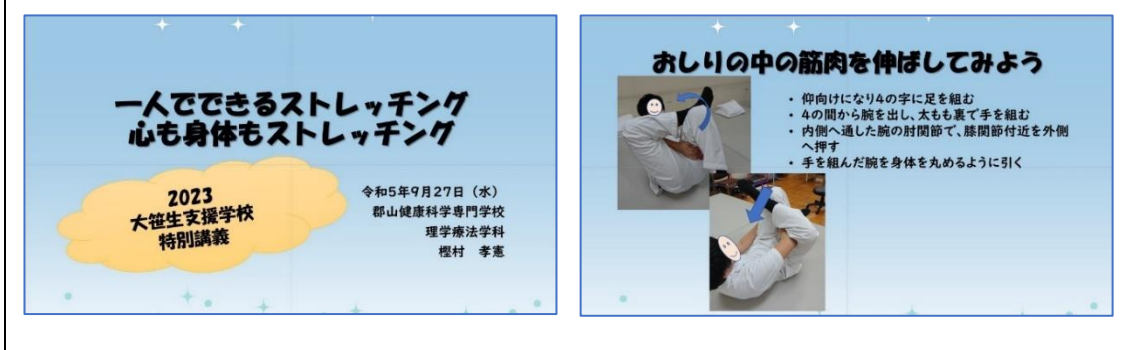
	(山形芋煮会フェスティバル) 日時：2023年9月17日(日) 10:00~15:00 場所：山形市馬見ヶ先河川敷 商品：かき氷、きゅうりの一本漬、冷甘酒
添付資料	講義資料： アンケート： その他：

### 6.1.2.16. 第16回 実証講座 (大笹生支援学校)

講座名	ストレス解消ストレッチ
開催日時	2023年9月27日(水) 10時30分~12時10分(90分)
場所	福島県立大笹生支援学校
対象者	3年生 6名、教員4名
担当	講師：郡山健康科学専門学校 檜村、補助：根本
教材	資料名：一人のできるストレッチング 心も身体もストレッチング 媒体(紙媒体、投影)
実施内容等	<p>1. 実施準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料投影の確認</li> <li>・事前打ち合わせ</li> </ul> <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師紹介</li> <li>・講義</li> <li>・感想・アンケート</li> </ul> <p>3. 後始末</p> <p>(この講義で学ぶこと)</p> <p>①ストレッチングのダイエット効果 ②正しい姿勢とは?、③ストレッチングの心理的効果、 ④ストレッチングに対する注意点、 体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・背伸びするストレッチング、・背中延ばすストレッチング、</li> <li>・肩甲骨周りの筋肉を伸ばしてみよう、</li> <li>・太もも前の筋肉を伸ばしてみよう</li> <li>・太もも前と脇腹を伸ばしてみよう、</li> <li>・恐竜ストレッチング、</li> <li>・おしりの中の筋肉を伸ばしてみよう、</li> <li>・太もも裏の筋肉を伸ばしてみよう</li> </ul>
添付資料	講義資料：一人のできるストレッチング 心も身体もストレッチング アンケート：紙媒体



本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）



### 6.1.2.17. 第17回 実証講座（岩沼高等学園）


講座名	販売の現場実習の事後勉強
開催日時	2023年10月11日（水） 15時45分～16時30分
場所	宮城県立支援学校岩沼高等学園
対象者	生徒 6名、教員1名
担当	講師：根本
教材	資料名：日本一の山形芋煮会フェスティバル事後勉強会 媒体：紙
実施内容等	<p>9月17日に開催された「第35回 日本一の山形芋煮会フェスティバル」に出店し、販売の現場実習を実施した後の事後勉強会を実施した。</p> <p>（内容）</p> <p>①かかった費用について ・直接経費、間接経費</p> <p>②販売数と売上額 ・販売価格、数量、売上額 ・値下げ</p> <p>③収支差額 ・売上額と費用</p> <p>④次はどうすればよいか ・販売品の検討 ・原価の検討</p>
添付資料	講義資料：販売の現場実習の事後勉強 アンケート： その他：

本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）

**第35回 日本一の山形芋煮会フェスティバル**

仙リハHANDS & 文部科学省委託事業

かき氷、冷甘酒、きゅうりの一本漬 **販売体験！！**



日時：2023年9月17日（日）  
 場所：山形県東山町先斗川（雨天決行）  
 観衆：日本一の大鍋（直径6.5メートル）「三代目大鍋・鍋太郎」で約3万食の芋煮を作ります。  
 ギネス世界一記録です！！

(かき氷、冷甘酒、きゅうりの一本漬)

販売数と売上額

1. かき氷 **目標：390杯**

	販売価格	数量	売上額	備考
かき氷	300	105	31,500	
	200	91	18,200	12:40～値下げ
	100	101	10,100	14:15～値下げ
かき氷 (練乳付)	350	5	1,750	
	250	1	250	12:40～値下げ
	150	5	750	14:15～値下げ
小計		308	62,550	

2. 冷甘酒 **目標：99杯**

	販売価格	数量	売上額	備考
甘酒	200	79	15,800	
	100	19	1,900	14:00～値下げ
小計		98	17,700	

**6.1.2.18. 第18回 実証講座（大笹生支援学校）**

講座名	コミュニケーション
開催日時	2023年10月25日（水） 13時10分～14時00分（50分）
場所	福島県立大笹生支援学校
対象者	3年生 7名、教員2名
担当	講師：根本
教材	資料名：コミュニケーション（ビジネスマナー） 媒体（紙媒体、投影）
実施内容等	<p>1. 実施準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料投影の確認</li> <li>・事前打ち合わせ</li> </ul> <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師紹介</li> <li>・講義</li> <li>・感想・アンケート</li> </ul> <p>3. 後始末</p> <p>（この講義で学ぶこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①実習の振り返りチェック</li> <li>②コミュニケーションとは？</li> <li>③コミュニケーションで大切なこと             <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なコミュニケーション、・相手を理解する、</li> <li>・相手に伝わるようにする</li> </ul> </li> <li>④相手は何が言いたいのかを考えよう</li> <li>⑤苦手な人への伝え方</li> <li>⑥注意や叱られたとき</li> <li>⑦リフレッシュ（気持ちの切りかえ）</li> <li>⑧もう一度、振り返りチェック</li> </ol>
添付資料	講義資料：コミュニケーション（ビジネスマナー）

	アンケート：紙媒体
本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）	


### 6.1.2.19. 第19回 実証講座 (小牛田高等学園)

講座名	履歴書を書く準備を始めよう 面接の前に準備しておくこと
開催日時	2023年10月31日(火) 8時50分～10時30分(90分)
場所	宮城県立支援学校小牛田高等学園
対象者	3年生 19名、教員5名
担当	講師：櫻井直人、補助：根本峰人
教材	資料名：履歴書を書く準備を始めよう 面接の前に準備しておくこと 媒体（紙媒体、投影、Google フォーム）
実施内容等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料投影の確認</li> <li>・事前打ち合わせ</li> </ul> </li> <li>2. 講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師紹介</li> <li>・講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想・アンケート</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>3. 後始末</li> </ol> <p>（この講義で学ぶこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①履歴書（りれきしょ）の書き方、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・趣味、特技（良いところ）はなにですか？</li> <li>・特技（良いところ）をどのように活かせますか？</li> </ul> </li> <li>②面接の前に準備しておくこと <ul style="list-style-type: none"> <li>・会社見学や実習の心得、・面接時の服装、</li> <li>・面接時の態度、・就職希望の理由（動機）を伝える</li> <li>・とくい、苦手、はいりよして欲しいこと</li> </ul> </li> </ol>

添付資料	講義資料：履歴書を書く準備を始めよう 面接の前に準備しておくこと アンケート：紙媒体 その他：タブレット使用
本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）	

### 6.1.2.20. 第 20 回実証講座（大笹生支援学校）

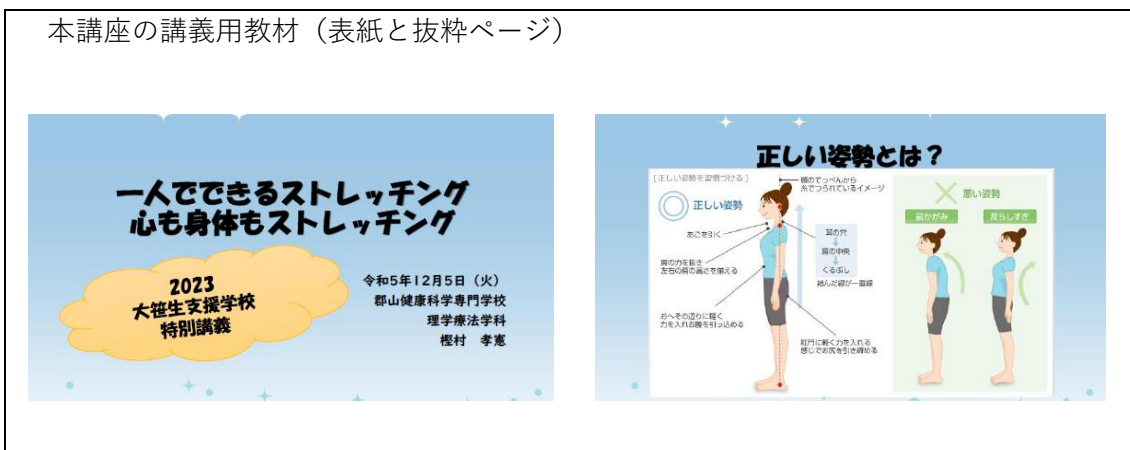
講座名	面接の前に準備しておくこと
開催日時	2023年11月29日（火） 13時00分～14時00分（60分）
場所	福島県立大笹生支援学校
対象者	3年生 6名、教員2名
担当	講師：根本峰人
教材	資料名：面接の前に準備しておくこと 媒体（紙媒体、投影）
実施内容等	<p>1. 実施準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料投影の確認</li> <li>・事前打ち合わせ</li> </ul> <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師紹介</li> <li>・講義</li> <li>・感想・アンケート</li> </ul> <p>3. 後始末</p> <p>（この講義で学ぶこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①会社見学や実習の心得</li> <li>②面接時の服装</li> <li>③面接時の態度</li> <li>④就職希望の理由（動機）を伝える</li> <li>⑤とくい、苦手、はいりよして欲しいこと</li> </ol>
添付資料	講義資料：面接の前に準備しておくこと

	アンケート：紙媒体
本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）	
<p>第1章</p> <h2>面接の前に 準備しておくこと</h2> <p>しゅうしょくするためには、 まず会社の採用担当者に会い、 自分がどんな人物かを 知ってもらわなければなりません。</p>	<p>-とくい・苦手-はいりよして欲しいことの整理-</p> <p>③ はいりよして欲しいことは？</p> <p>(例) ・新しいことをおぼえるのに時間がかかることを 知ってもらいと助かる ・言葉だけでなく、書いてもらうと仕事が正確に できやすくなる ・たくさんの方がいると苦手なので、昼休みを ずらしてもらえると助かる</p> <p>④ つういん・くすりは？</p> <p>つういん 1週間に約 回など</p> <p>くすり 自分でかんりして飲めるかなど</p> 

### 6.1.2.21. 第21回実証講座（大笹生支援学校）

講座名	ひとりでできるストレッチ
開催日時	2023年12月5日（火） 15時45分～17時00分（75分）
場所	福島県立大笹生支援学校
対象者	運動部 21名、教員7名
担当	講師：樫村考憲
教材	資料名：一人で行えるストレッチング 媒体（紙媒体）
実施内容等	<ol style="list-style-type: none"> <li>実施準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>資料投影の確認</li> <li>事前打ち合わせ</li> </ul> </li> <li>講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>講師紹介</li> <li>講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>感想・アンケート</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>後始末</li> </ol> <p>（この講義で学ぶこと）</p> <p>①一人で行えるストレッチング体験</p>
添付資料	講義資料：一人で行えるストレッチング アンケート：紙媒体

本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）



### 6.1.2.22. 第 22 回実証講座 （大笹生支援学校）

講座名	お金の使い方
開催日時	2023年12月20日（水） 13時00分～14時00分（60分）
場所	福島県立大笹生支援学校
対象者	3年生 6名、教員3名
担当	講師：根本峰人
教材	資料名：お金の使い方 媒体（紙媒体、投影）
実施内容等	<p>1. 実施準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料投影の確認</li> <li>・事前打ち合わせ</li> </ul> <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師紹介</li> <li>・講義</li> <li>・感想・アンケート</li> </ul> <p>3. 後始末</p> <p>（この講義で学ぶこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①お金のやりくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗例、・収入、・支出、</li> </ul> </li> <li>②生活に必要なお金の例（ワーク）</li> <li>③一ヶ月で必要なお金を考えよう <ul style="list-style-type: none"> <li>・収入の計算、・支出の計算、</li> </ul> </li> <li>④収入と支出のバランスを考える</li> <li>⑤やりくり上手になるポイント</li> </ol>
添付資料	講義資料：お金の使い方 アンケート：紙媒体

本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）



### 6.1.2.23. 第23回実証講座（石川支援学校）

講座名	ライフプラン
開催日時	2024年1月9日（火） 13時15分～15時00分（90分）
場所	福島県立石川支援学校
対象者	3年生 16名、教員3名
担当	講師：櫻井直人
教材	資料名：ライフプラン 媒体（紙媒体、投影、タブレット）
実施内容等	<p>1. 実施準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料投影の確認</li> <li>・事前打ち合わせ</li> </ul> <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師紹介</li> <li>・講義</li> <li>・感想・アンケート</li> </ul> <p>3. 後始末</p> <p>（この講義で学ぶこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ライフプランを考える</li> <li>②ライフプランを作ってみる</li> <li>③コミュニケーションについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗例</li> <li>・ロールプレイ</li> </ul> </li> </ol> <p>②生活に必要なお金の例（ワーク）</p> <p>③働くってなに。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働くことについて考えよう、働く目的、</li> </ul>
添付資料	講義資料：ライフプラン アンケート：紙媒体

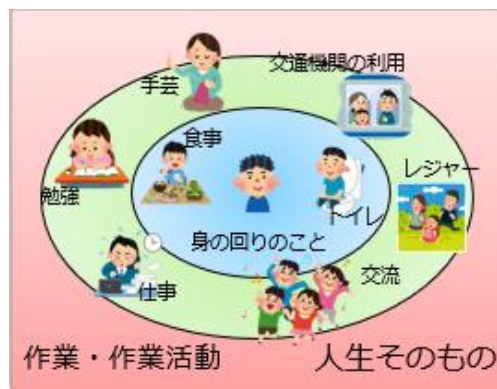
本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）	
	

#### 6.1.2.24. 第 24 回実証講座 （大笹生支援学校）

講座名	作業療法体験
開催日時	2024年1月31日（水） 13時00分～14時00分（60分）
場所	福島県立大笹生支援学校
対象者	3年生 6名、教員3名
担当	講師：根本峰人
教材	資料名：作業療法士の仕事について 媒体（紙媒体）
実施内容等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料投影の確認</li> <li>・事前打ち合わせ</li> </ul> </li> <li>2. 講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師紹介</li> <li>・講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想・アンケート</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>3. 後始末</li> </ol> <p>（この講義で学ぶこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①作業療法士の仕事</li> <li>②作業療法体験（革細工）</li> </ol>
添付資料	講義資料：作業療法の仕事について アンケート：紙媒体



本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）



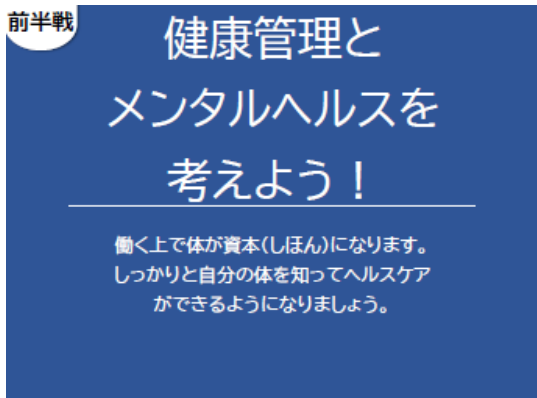
### 6.1.2.25. 第 25 回実証講座 (小牛田高等学園)

講座名	健康管理とメンタルヘルスを考えよう
開催日時	2024年2月6日(火) 8時50分～10時30分(90分)
場所	宮城県立支援学校小牛田高等学園
対象者	3年生21名、教員5名、視察6名
担当	講師：櫻井直人、補助：根本峰人
教材	資料名：健康管理とメンタルヘルスを考えよう 媒体（紙媒体、投影、タブレット）
実施内容等	<p>1. 実施準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料投影の確認</li> <li>・事前打ち合わせ</li> </ul> <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師紹介</li> <li>・講義</li> <li>・感想・アンケート</li> </ul> <p>3. 後始末</p> <p>（この講義で学ぶこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①BMIについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人判定</li> </ul> </li> <li>②栄養管理も大切 <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要カロリーの計算</li> </ul> </li> <li>③筋肉をつくるために <ul style="list-style-type: none"> <li>・タンパク質</li> </ul> </li> <li>④腰痛予防と肩こり予防</li> <li>⑤具体的なストレッチと筋トレ <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験</li> </ul> </li> <li>⑥メンタルヘルスと自律神経</li> </ol>

添付資料	講義資料：健康管理とメンタルヘルスを考えよう アンケート：紙媒体 その他：タブレット使用
<p>本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="268 495 791 880" style="border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #0056b3; color: white;"> <p style="font-size: 0.8em; margin: 0;">前半戦</p> <h2 style="text-align: center; margin: 0;">健康管理と メンタルヘルスを 考えよう！</h2> <p style="font-size: 0.8em; margin: 10px 0 0 20px;">働く上で体が資本(しほん)になります。 しっかりと自分の体を知ってヘルスクア ができるようになります。</p> </div> <div data-bbox="815 495 1345 880" style="border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #f0f0f0;"> <p><b>① タンパク質の大切さ</b></p> <p>筋トレをする際は、十分な<b>タンパク質</b>を摂取することが大切です。</p> <p>筋トレは、筋肉に負荷をかけることで筋肉の成長を促し、筋出力を高めるトレーニングです。</p> <p>筋肉は刺激されると<b>タンパク質</b>を吸収しようとしています。</p> <p><b>② タンパク質を取らないと筋トレの効果なし…</b></p> <p>逆に偏った食事では十分な<b>タンパク質</b>が摂取できず、その状態で筋トレをしても、筋肉が分解されるだけで、十分に合成がおこなわれません。</p> <p>その結果、筋肉量が減ってしまい、筋トレの効果は現れにくくなります。</p> </div> </div>	



### 6.1.2.26. 第 26 回実証講座 （小牛田高等学園）

講座名	健康管理とメンタルヘルスを考えよう
開催日時	2024年2月6日（火） 10時40分～12時20分（90分）
場所	宮城県立支援学校小牛田高等学園
対象者	2年生19名、教員5名、視察6名
担当	講師：櫻井直人、補助：根本峰人
教材	資料名： 健康管理とメンタルヘルスを考えよう 媒体（紙媒体、投影、タブレット）
実施内容等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料投影の確認</li> <li>・事前打ち合わせ</li> </ul> </li> <li>2. 講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師紹介</li> <li>・講義</li> <li>・感想・アンケート</li> </ul> </li> <li>3. 後始末</li> </ol> <p style="margin-left: 20px;">（この講義で学ぶこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①BMIについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人判定</li> </ul> </li> <li>②栄養管理も大切 <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要カロリーの計算</li> </ul> </li> <li>③筋肉をつくるために <ul style="list-style-type: none"> <li>・タンパク質</li> </ul> </li> <li>④腰痛予防と肩こり予防</li> </ol>

	<p>⑤具体的なストレッチと筋トレ ・体験</p> <p>⑥メンタルヘルスと自律神経</p>
添付資料	<p>講義資料：健康管理とメンタルヘルスを考えよう アンケート：紙媒体 その他：タブレット使用</p>
<p>本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>前半戦</p> <h2 style="text-align: center;">健康管理と メンタルヘルスを 考えよう！</h2> <p style="text-align: center;">働く上で体が資本(しほん)になります。 しっかりと自分の体を知ってヘルスケア ができるようになります。</p> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>④ 肥満の人？</b></p> <p>肥満の人がなりやすいとされるのが、糖尿病、高血圧、脂質異常症などです。 どれも動脈硬化につながり、放っておくと心筋梗塞や脳卒中など生命にか かわる病気を引き起こす<b>危険</b>があります。</p> <p><b>⑤ 低体重の人？</b></p> <p>食が細い高齢者の場合は、摂取エネルギーの不足から筋力が低下し、転倒や 寝たきりの原因となる<b>危険</b>があります。</p> </div> </div>	

### 6.1.2.27. 第27回実証講座（女川高等学園）

講座名	ビジネスマナー
開催日時	2024年2月21日（水） 10時30分～12時10分（80分）
場所	宮城県立支援学校女川高等学園
対象者	3年生24名、教員9名
担当	講師：櫻井直人、補助：根本峰人
教材	資料名：ビジネスマナー 媒体（紙媒体、投影、タブレット）
実施内容等	<p>1. 実施準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料投影の確認</li> <li>・事前打ち合わせ</li> </ul> <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師紹介</li> <li>・講義</li> <li>・感想・アンケート</li> </ul> <p>3. 後始末</p> <p>（この講義で学ぶこと）</p> <p>①社会にでて働く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と会社（職場）の違い、</li> <li>・お金を頂くためには、</li> </ul>

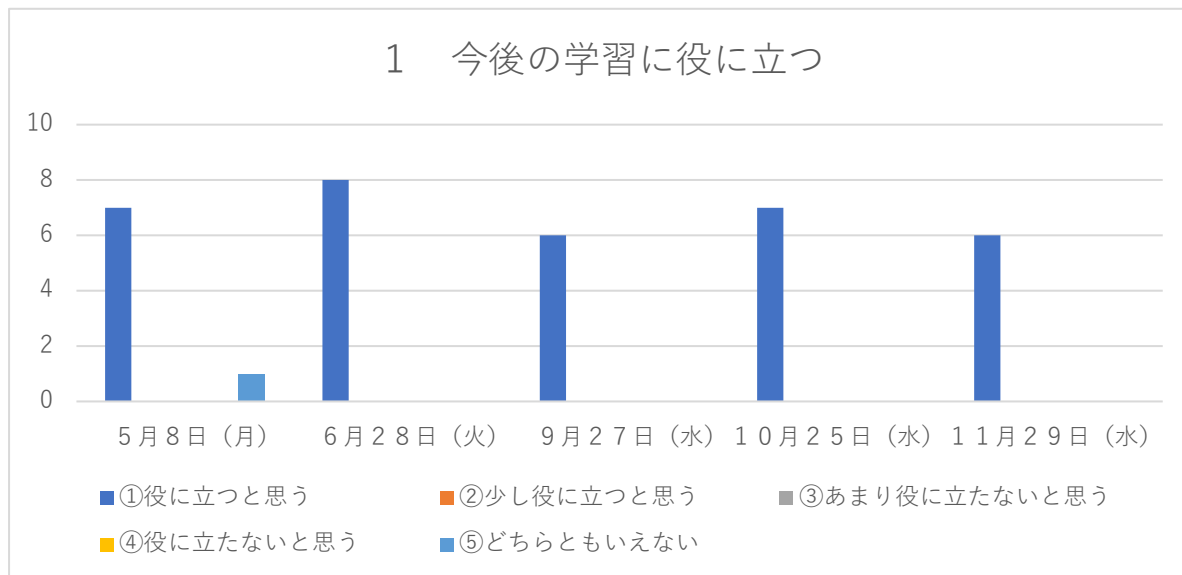
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校×会社（職場）教育</li> <li>②通勤・職場での服装</li> <li>③身だしなみ</li> <li>④職場の中での移動</li> <li>⑤出社～始業時間まで</li> <li>⑥あいさつ</li> <li>⑦言葉づかいの基本</li> <li>⑧書類の渡し方</li> <li>⑨アドバイスを受ける</li> <li>⑩お願いする・質問する</li> <li>⑪基本的な報告と連絡と相談</li> <li>⑫冠婚葬祭とは</li> </ul>
添付資料	講義資料：ビジネスマナー アンケート：紙媒体 その他：タブレット使用
本講座の講義用教材（表紙と抜粋ページ）	
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #0056b3; color: white; width: 45%;"> <p style="font-size: small; margin: 0;">前半戦</p> <h2 style="text-align: center; margin: 0;">ビジネスマナー</h2> <hr style="border: 0.5px solid white; margin: 10px 0;"/> <p style="font-size: x-small; text-align: center; margin: 0;">服装や身だしなみ、 通勤時に気をつけることがあります。</p> <p style="font-size: x-small; text-align: center; margin: 0;">また、しょくば内でのあいさつや移動 なども身につけましょう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 45%; text-align: center;"> <p style="font-size: small; margin: 0;">① どちらの服装が望ましいですか？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p style="font-size: x-large; font-weight: bold; color: blue;">A</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p style="font-size: x-large; font-weight: bold; color: blue;">B</p> </div> </div> </div> </div>	

### 6.1.3. 実証講座の結果要旨

今年度の実証講座では、実施後の生徒アンケート、特別支援学校高等部の教員及び実証講座担当講師からの意見、実施委員及びコーディネーターからの意見などを総合的に勘案することで検証を進めた。

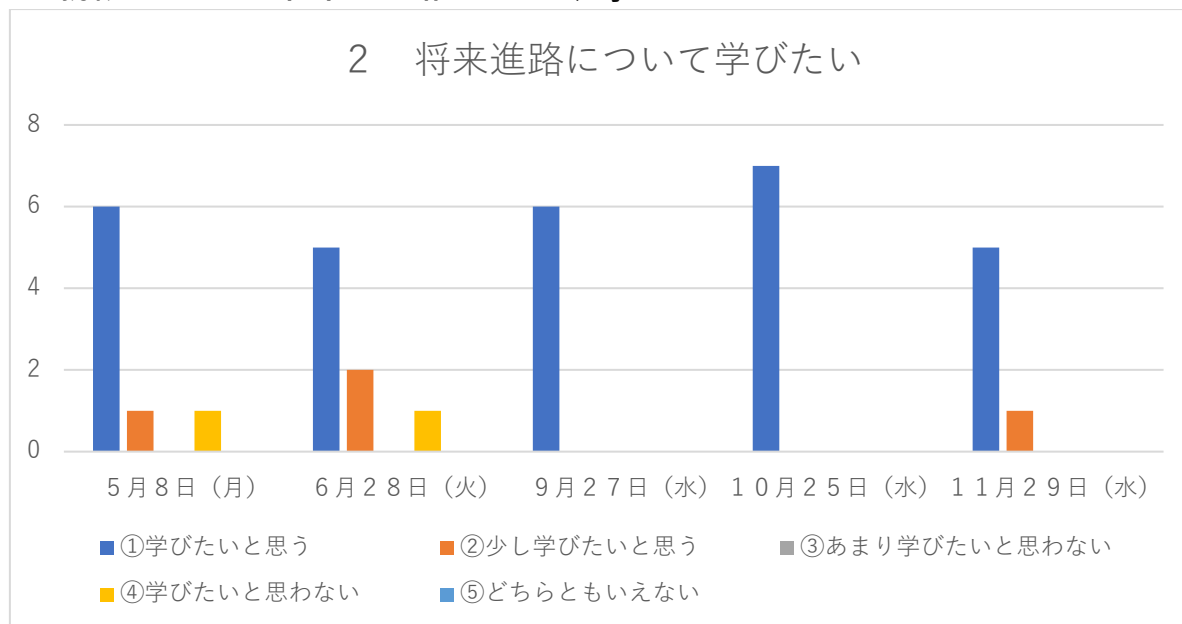
すべての実施回で講座終了時に生徒へのアンケートを実施しているが、ここでは特に継続して講座を受講した学生が多かった「大笹生支援学校」の結果を、意識変化が見て取れる形でグラフ化して掲載する。これらのアンケート結果から、生徒個々の講座の受け止めかたを確認することができたのは大きな成果のひとつであった。

## 1. 今日の授業の内容は、これからの学習や卒業した後、役に立つと思いますか。



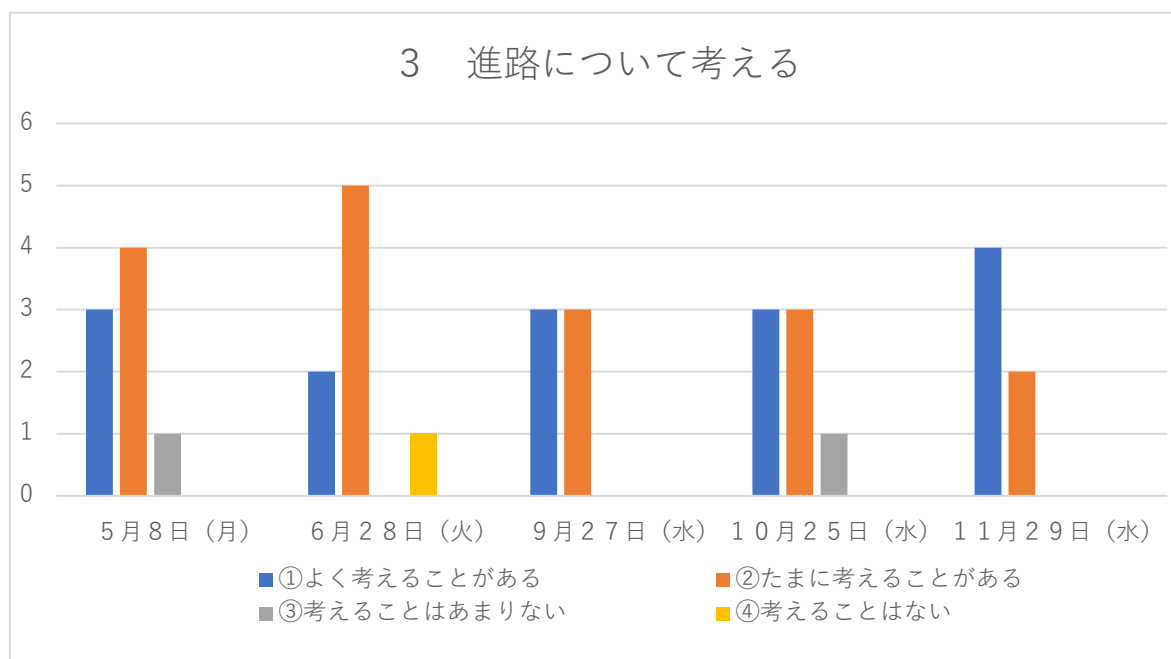
第1回では「どちらともいえない」という回答が1名あったが、それ以外の受講者が全ての回で「役に立つ」と回答していた。

## 2. 就職や進学など将来の進路について、学びたいと思いますか



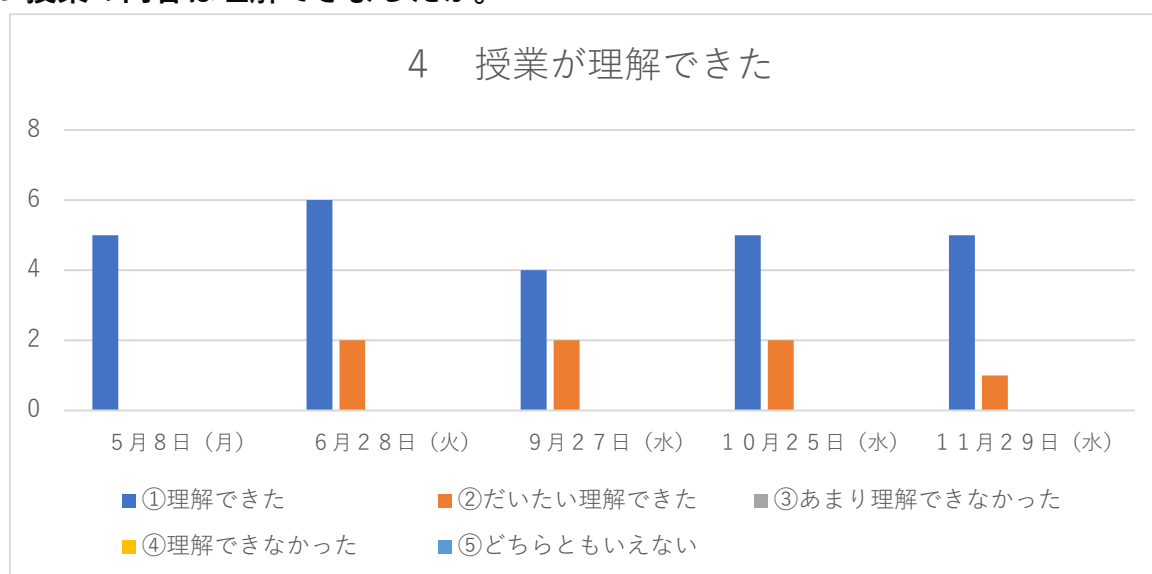
「学びたいと思う」という回答が最も多かった。また、「学びたいと思う」という回答は回を重ねるごとにおだやかに増え、「学びたいと思わない」という回答は無くなった。

3. 就職・進学など高等部を卒業した後の自分の進路について、もっとも当てはまるのはどれですか



当初は、進路について「たまに考える」という回答が多かったが、回を重ねるごとに、「よく考えることがある」という回答が増え、「たまに考えることがある」と同程度の割合となった。最終的には「よく考えることがある」という回答の方が多くなった。

4. 授業の内容は理解できましたか。



授業はどの回も「理解できた」という回答が多く、「理解できなかった」という回答はみられなかった。

## 6.2. 高等部・高等学園間の連携支援の実施

### 6.2.1. 実証講座の相互参観・意見交換の実施

高等部・高等学園同士の相互交流の促進を図った。実証講座に他校の教員がオブザーバーとして参観し、実施後に講座に係わる意見交換を行うなどの取り組みを通じて、教育ノウハウや知見を共有したり、相互理解を促進する準備を進めた。さらに、こうした場を活用することで、実証講座を多角的に検証し、教育プログラムの質的向上や教育手法の改善を図っていくことを目指し、年度内に次年度の日程調整を始める予定である。

### 6.2.2. 教職員対象の講座の実施

高等部と専門学校の連携強化、専門学校教育への理解を促すための取組みを実施した。高等部の教職員を対象とする講座の実施を目指し、テーマについてはリハビリ医療の専門的知見に基づく心身の健康管理などとし、各校との協議を行う準備を進めた。

### 6.2.3. 生徒の保護者による講座の参観・保護者対象の講座の実施

生徒の保護者にも実証講座を参観してもらう機会を設定することを目指しているために、保護者についても教職員対象の講座と同様の講座を実施し、専門学校教育への理解促進を図るため、次年度の実施企画を検討した。

## 6.3. 教育プログラムの開発

### 6.3.1. カリキュラム策定の基本方針（2023年度版）

カリキュラム策定の基本方針は前年度と大きな相違はないが、今年度の実証講座の実施実績を踏まえて、各校の個別ニーズなどへの柔軟な対応を方針として明記する。

- テーマごとで完結した講座を単位としてカリキュラムを構成する。
- 授業で運用しやすいように、一講座は1～3コマ程度（1コマ50分）を基本とする。
- 各学年について、計10講座（30コマ）程度の講座を設定し、メニュー化する。
- 特別支援学校はこれらの講座メニューから、各校が必要と判断する講座を選択する。
- カリキュラムは各校のニーズなどに応じて柔軟に対応し、講座の内容などは個別のカスタマイズ・調整を行い実施する。

### 6.3.2. カリキュラム（2023年度版）

以下に2023年度版のカリキュラム（講座の構成と概要）を一覧で示す。

昨年度事業で策定したカリキュラムを見直し、教育ニーズや現場の状況に対応した改訂を行い、カリキュラム2023年度版として取りまとめた。具体的には、実証講座の検証結果を反映させるなどして講座の構成や各講座の学習目標・内容、指導方法を改善した。

講座の名称、内容、コマ数は可変とし、各校の要望などに応じてカスタマイズして実施することも想定範囲である。また、講座の配当年次も同様で、3年生の科目を1年生向けにアレンジして実施するなどのケースも想定としている。

以下の表では、さまざまな職業に共通する内容、特定の職業の基礎的・導入的な内容の講座である。

図表 6-2 カリキュラム

学年	講座名	コマ数
1年生	(1) いろいろな職業を知ろう モノをつくる仕事、モノを売り買いする仕事、サービスする仕事の内容とその職種について学習する。	1～3
	(2) 働くことについて考えよう なぜ、私たちは働くのか。そんな問いかけから、働くことの意味や意義について考えを深める。これにより、将来に向けた職業意識を養う。	1～3
	(3) 社会のしくみを知ろう 職業という視点から、社会がどのようなしくみで成り立ち、動いているのかを学ぶ。その社会の中でいろいろな職業がどのような役割を果たしているのかを学習する。	1～3
	(4) 自分自身を管理しよう 自己管理とはなにか、その目的や大切さ、具体的な方法について学習する。	1～3
	(5) 健康管理をしよう 身体の状態（バイタル管理）を理解し、自分で健康管理ができるように学習する。	1～3
	(6) メンタルヘルスとは何かを学ぼう 心と身体の仕組みを理解し、心と上手に向き合っていく方法について学習する。	1～3
	(7) スポーツ関連を楽しもう	1～3



	運動の基礎を理解し、トレーニング方法やケガ予防・対処方法について学習する。	
	(8) インターネットをじょうずに活用しよう 検索エンジン Google を活用して、生活や学習に必要な情報を入手し利用するための方法について学習する。	1~3
	(9) ネットのトラブルに巻き込まれないように注意しよう ネットで人をだます詐欺の内容を学び、その被害を受けないための具体的な方法について学習する。	1~3
	(10) 情報モラルとは何かを学ぼう SNS や電子メールなどを使う際のマナーや注意すべき点について学習する。	1~3
	(11) パソコンを活用しよう (ワープロ) Word のさまざまな機能を活用して文書を作成する方法を学習する。	1~3
	(12) ビジネスマナーとは何かを学ぼう A 身だしなみ、表情、あいさつなどビジネスマナーの基礎について学習する。	1~3
	(13) 介護職ってどんな仕事か体験してみよう 介護職の仕事内容について、車椅子の体験なども織り交ぜて学習する。	1~3
2年生	(1) キャリアデザインとは何かを学ぼう A~自分のことを知ろう これまでの自分を振り返りながら、自分自身についての理解を深める。	1~3
	(2) キャリアデザインとは何かを学ぼう B~なりたい自分を考えよう 自分が興味を持っていることややってみたいと思っていることなどから、将来なりたい自分について考えを深める。	1~3
	(3) ビジネスマナーとは何かを学ぼう B 会社訪問や来客への対応などビジネスマナーの基礎について学習する。	1~3
	(4) ビジネスマナーとは何かを学ぼう C 電話対応、電子メールでの対応などビジネスマナーの基礎について学習する。	1~3
	(5) 健康管理をしよう	1~3

	体重管理（ダイエット）、筋力向上、維持についての基礎を学習する。	
	(6) メンタルヘルスを学ぼう 精神的なストレスや悩みとの向き合い方や、それを解消する方法について学習する。	1～3
	(7) スポーツ関連を楽しもう 筋力トレーニング、持久力トレーニングの基礎を演習で学習する。	1～3
	(8) 部活を楽しもう 運動系の部活で怪我をしないための準備運動や冬場の体力づくりについて学習する。	1～3
	(9) 介護職の仕事を学ぼう 介護職を希望する生徒を対象とする講座。介護の仕事の内容や働きがいについて学習する。将来の進路選択のための基礎知識を学ぶ。	1～3
	(10) 販売ってどんな仕事か学ぼう 販売を希望する生徒を対象とする講座。販売の仕事の内容や働きがいについて学習する。将来の進路選択のための基礎知識を学ぶ。	1～3
	(11) パソコンを活用しよう（表計算） Excel のさまざまな機能を活用して、データを集計・加工する方法を学習する。	2～6
3年生	(1) 将来のことを考えよう～ライフデザイン 将来、どのような生活を送っていきたいか、自分自身の考えを深める。	1～3
	(2) 就職活動で大切なことを学ぼう 就職活動を行う上での心がまえや注意しておくべき点などについて学習する。	1～3
	(3) 自己をPRしよう 就職面接に向けて、自分自身をPRするための方法を学び、その実践について学習する。	1～3
	(4) 社会人の心がまえを学ぼう 社会人、職業人としての心がまえ、求められる姿勢などについて学習する。	1～3
	(5) 余暇生活を考えよう	1～3

	余暇活動の大切さについて学び、余暇生活を送っていきたくについて考えを深める。	
(6)	お金のじょうずな使い方を学ぼう 日々の生活の中で、じょうずにお金を使い、やりくりしていくための方法について学習する。	1～3
(7)	お金のトラブルに巻き込まれないために注意しよう 詐欺やお金の貸し借りをめぐるトラブルについて学び、お金に関する被害に巻き込まれないための具体的な方法について学習する。	1～3
(8)	健康管理をしよう 自分の健康管理を実践して、記録ができるように学習する。	1～3
(9)	メンタルヘルスを学ぼう 自分にあったメンタルヘルスを実践し、日々の生活に活かせるように学習する。	1～3
(10)	スポーツ関連を楽しもう 自分の目的に沿ったトレーニング方法や手段を選択しながら学習する。	1～3
(11)	ビジネスコミュニケーションを学ぼう 報告・連絡・相談など仕事を進めていく上で必要となるコミュニケーションの実践について学習する。	1～3
(12)	パソコンを活用しよう（プレゼンテーション） PowerPointのさまざまな機能を活用して、プレゼンテーション資料を作成する方法を学習する。	1～3
(13)	介護の仕事を経験しよう 高齢者に対する生活支援の実践を通して、介護福祉という仕事への理解を深める。	3～6
(14)	販売の仕事を経験しよう 商品販売の実践を通して、販売という仕事への理解を深める。	3～6

### 6.3.3. 教材開発の基本方針

●開発教材をベースとして、各校の要望・生徒の個性に応じてアレンジして活用

開発する教材を次年度「そのまま」利用してもらう想定だけではなく、これをベースとして、各校の要望等を取り入れアレンジして利用する、あるいは、開発教材を素材の1つとし

て各校と検討し、新たに教材を開発することも想定範囲とする。その意味で、次年度の職業教育プログラムの実施に向けた検討・具体化も視野の範疇として開発している。

### 6.3.4. 開発教材の概要

昨年度の事業では、主として高等部 2 年生を対象の想定とする教材の開発を行った。社会生活教育及び職業キャリア教育の各領域に対応した、高等部 3 年生向けの教材を開発した。実証講座の成果を汎用化することを目的としている。その一覧を以下に示す。

図表 6-3 教材開発のテーマと内容一覧

社会生活教育	「ライフスタイル・ライフデザイン」(人生設計)
	「金銭感覚」(お金のあつかい方)
	「デジタル社会のリテラシー」
職業キャリア教育 (就職活動実践)	「就職のためのガイド」
職業キャリア教育 (進学)	「進学学習の手引き」 (実地体験学習、趣味レーション体験学習を含む)

社会生活教育は、在学時だけでなく卒業後の生活をも見据えて、自立した社会人として生活していく上で必要となる知識や技能、ものごとの捉え方や考え方などについて学習する教材を開発してきている。テーマとしては、ライフスタイル・ライフデザイン(人生設計)や金銭管理、デジタル社会のリテラシーを開発した。

職業キャリア教育(就職活動実践)は、各校が実施している就職活動教育の充実化を図るべく、就職活動の実践で不可欠となる知識・技能、心がまえなどについて学習する教材を想定として検討を進めていて、次年度の開発を想定している。

職業キャリア教育(進学)は、医療系および介護福祉をはじめとする専門学校では、どのような施設・設備でどのようなことを学ぶのかについて学習する教材を開発している。具体的には、実地体験学習、シミュレーション体験学習などを想定として検討を進めた。

これらの開発教材は本報告書の巻末資料に掲載している。

#### 6.3.4.1. 教材「ライフスタイル・ライフデザイン(人生設計)」

本社会での自立には、生徒一人ひとりが自分自身にとっての「望ましい生き方＝ライフスタイル」について考えてみることも有効である。自分にとって望ましい生き方を考えるためには、これまでの生活や経験を振り返り、自らの性格や行動といった「パーソナリティ」や、

自分が何を大切に思っているかという「価値観」、将来の仕事に対してどう向き合っているかと考えているかという「職業観」など、さまざまな視点から自分自身を見つめ直す「自己理解」が不可欠となる。

この教材では、これから社会に巣立つ前の段階で、生徒一人ひとりが「自分自身について考え（自己理解）」、「自分にとって望ましい生き方＝ライフスタイルについて考える」きっかけを提供する。

図表 6-5 内容構成

(ライフスタイル)
第1章: ライフスタイルのきほん
第2章: 健康的な暮らし
第3章: 予定のたて方と時間の使いかた
第4章: 自分のことを知る
第5章: 人との対話や良い関係を作る
(ライフデザイン)
第6章: ライフデザインのきほん
第7章: 未来への希望と夢をかなえる
第8章: 将来のしごとと夢のかたち
第9章 お金とライフデザイン

図表 6-4 教材（スライドの一部）



### 6.3.4.2. 教材「金銭管理(お金とのつきあいかた)」

社会で自立するために必要な金銭管理の基本を見据え、実践することを目指して、お金の基本から、使い方や買い物のテクニック、インターネットショッピングの利用法、そして契約トラブルへの成功対処法までを含めて解説し、生徒たちの将来に向けて賢明な経済的意  
思決定を支援することを目的とする。

図表 6-7 内容構成

- 第1章: お金の基本
- 第2章: お金の使い方
- 第3章: 買い物のしかた
- 第4章: インターネットショッピング
- 第5章: 契約のトラブルと対処法

図表 6-9 教材 (スライドの一部)



### 6.3.4.3. 教材「デジタル社会のリテラシー(デジタル社会を知る)」

インターネット、スマートフォンは年齢に関わらず日常生活や仕事など多様な場面で不可欠のツールとなっている。非常に便利なツールであるその一方で、使い方を間違えば、不快な思いをさせたり・させられたり、深刻な被害や犯罪に巻き込まれてしまったりすることがある。さらに、そうした被害が本人だけでは家族や友人など周囲にまで及んでしまうこともある。

本教材では、日々の生活や仕事の中でネットを使う際を守るべき基本的なルールやマナーなどを学ぶ内容で構成されている。その目的は、学校生活だけでなく卒業後の社会生活、職業生活を送る上でのデジタル社会のリテラシーを習得することである。

教材は、簡単な事例をもとに気づきを与えるスタイルで、有効かつ注意しながらデジタル機器を活用できることをめざしている。

図表 6-8 学習テーマ一覧

- 第1章: デジタル社会のきほん
- 第2章: インターネットの世界
- 第3章: デジタル情報の選び方
- 第4章: オンラインコミュニケーション
- 第5章: デジタル社会と未来

図表 6-9 教材（スライドの一部）



#### 6.3.4.4. 教材「就職のためのガイド（就職キャリア教育）」

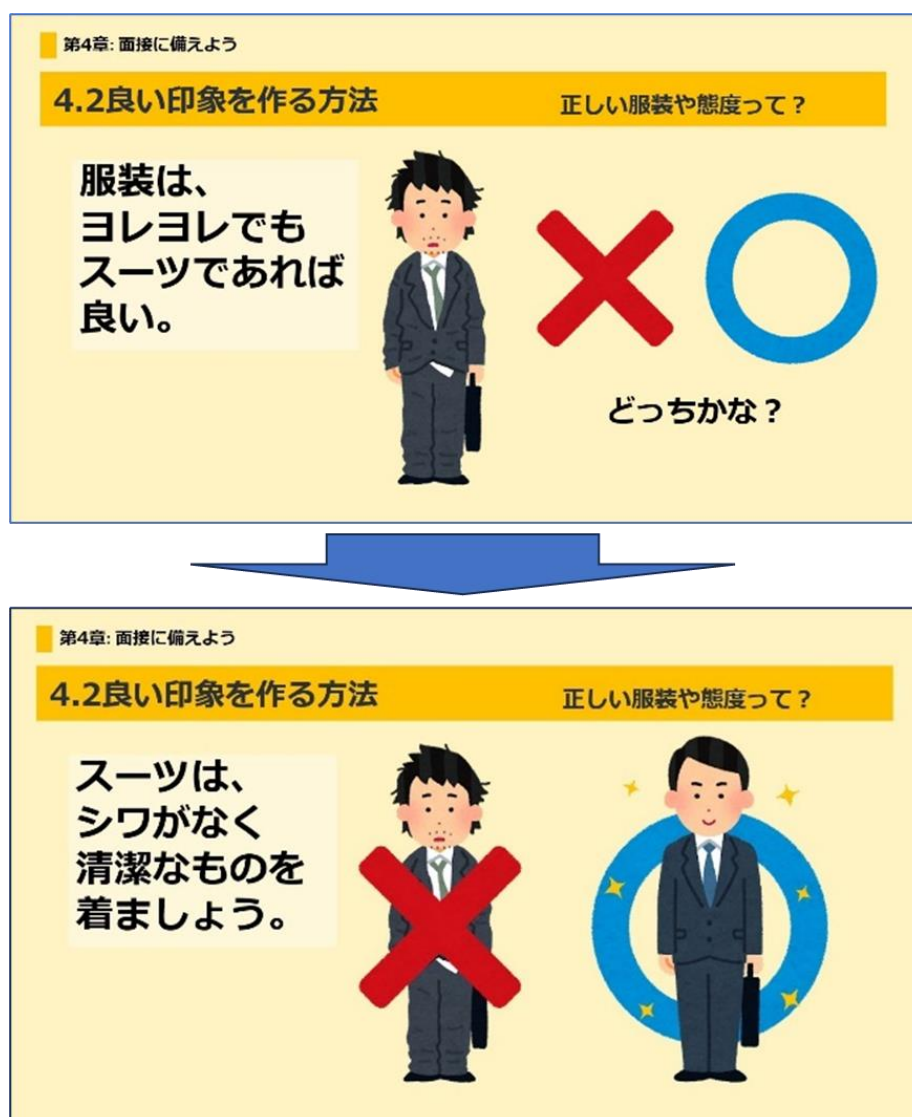
各校が実施している就職活動教育の充実化を図るべく、で就職活動の実践で不可欠となる知識・技能、心がまえなどについて学習する教材を想定として検討を進めていて、次年度の開発を想定している。一方的な講義ではなく、自ら考え自然と身に着くように、例えば、第4章「面接に備えよう」のような実践的な章では、よりわかりやすく、クイズ形式などの双方向性の高いコンテンツなどを検討した。

なお、今年度事業ではこの教材をプロトタイプと位置付け、次年度も継続して検討し、教材としての完成度を高めていく予定である。

図表 6-10 内容構成

- 第1章: 就職活動のきほん
- 第2章: 就職先のえらび方
- 第3章: 応募書類の作り方
- 第4章: 面接に備えよう
- 第5章: 就職後のステップと未来への展望

図表 6-11 教材（スライドの一部）





#### 6.3.4.5. 教材「就職のためのガイド（就職キャリア教育）」

医療系および介護福祉をはじめとする専門学校では、どのような施設・設備でどのようなことを学ぶのかについて学習する教材を開発している。具体的には、実地体験学習、シミュレーション体験学習などを想定として検討を進めていて、360°カメラを利用した、専門学校紹介のトライアル撮影を行った。

なお、この教材は次年度も継続して検討し、教材としての完成度を高めていく予定である。

図表 6-11 映像のイメージ



360度映像となっていて、任意の方向に回転させることができる

#### 6.3.5. 教材開発の意義・活用方策

開発教材はいずれも高等部のニーズや要望等をもとに企画されている。

例えば、「デジタル社会を知る」は、学校教育においてICT活用が急速に加速している中、情報モラル教育の実施が不可欠となっている現状への対応がねらいである。

また、「ライフスタイル・ライフデザイン」も、学校卒業した後の将来について生徒一人ひとりに考えてもらうきっかけを提供する教材だが、ライフスタイルやライフデザインに係わる教育への要望に応えようとするものである。

本事業で、このような教材を開発する意義は、生徒の多様な個性や教育ニーズへの対応を図ること、これにより高等部における職業キャリア教育の一層の充実化に貢献することである。

近年、キャリア教育の取り組みは活発で、そこで利用可能な市販テキスト、公的機関などによる無償テキストなども多数作られている。しかしながら、その多くは知的障害者を対象

として想定しておらず、そのままでは利用が難しいものも少なくない。こうした現状への対応も教材開発に取り組む意義と考えている。

本事業で開発した教材はいずれも、そのまま利用することだけを想定していない。一部分を抜き出したり、組みあわせや順序を変更したり、部分的な内容を変更したりするなど、対象者やニーズに応じたカスタマイズも想定している。こうした自由度の高さは教材の活用の幅の拡大につながるものとなる。

今年度事業で開発した教材は、次年度以降の実証講座で活用を検討していく。また、これらは広く全国の特別支援学校高等部に公開していくので、利用したいという学校があれば、活用支援を展開していく考えである。

## 6.4. 学習支援・教育支援環境の構築

過去 2 年間及び今年度の事業の開発成果である e ラーニング教材、C B T コンテンツを活用した学習・教育を支援する環境をインターネット上に整備している。

また、各校に対してカスタマイズされた教材や資料などを専門学校と支援学校高等部・高等学園の教職員が共有できるしくみ「教材ライブラリ」も整える。これにより、本事業で開発される教材を資産化し、各校での有効活用を図っていく。将来的には、これを外部にも公開し、事業成果の普及促進につなげていく。

対面授業以外での学習・教育の機会を増やし、生徒の多様な個性に対応していくことがねらいである。この支援環境を活用することで、高等部・専門学校という物理的・空間的な枠を超えて、教員が生徒の学習状況を確認することが可能となり、より密接な高専連携の促進も見込まれる。

図表 6-1 学習・教育支援環境のトップ画面（一部）

SENDAI REHABILITATION COLLEGE  
仙台リハビリテーション専門学校  
eラーニングシステム23

**「ライフスタイル・ライフデザイン」  
(人生設計)**

- 第1回 ライフスタイルのきほん
- 第2回 健康的な暮らし
- 第3回 予定のたて方と時間の使いかた
- 第4回 自分のことを知る
- 第5回 人との対話や良い関係を作る
- 第6回 ライフデザインのきほん
- 第7回 未来への希望と夢をかなえる
- 第8回 将来のしごとと夢のかたち
- 第9回 お金とライフデザイン

**お金のあつかい方**

- 第1章 お金の基本
- 第2章 お金の使い方
- 第3章 買い物のしかた
- 第4章 インターネットショッピング
- 第5章 契約のトラブルと対処法

**デジタル社会を知る**

- 第1回 デジタル社会のきほん
- 第2回 インターネットの世界
- 第3回 デジタル情報の選び方
- 第4回 オンラインコミュニケーション
- 第5回 デジタル社会と未来

ログアウト



## ■ 卷末資料



令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

**知的障害特別支援学校高等部と専門学校の有機的連携の開発と実証**

**事業成果報告書**

発行者 学校法人仙台北学園 仙台リハビリテーション専門学校

発行日 令和6年3月